

阪神・淡路大震災

北淡町の記録



震災文庫

4

449

激しい揺れにより倒壊した住宅（野島臺浦地区 読売新聞社提供）



発刊にあたって

北淡町長
小久保 正雄

平成7年1月17日午前5時46分、震度7の激震が我が北淡町を襲いました。その被害の甚大さから「阪神・淡路大震災」と呼ばれる未曾有の大災害を被り、町は壊滅的な状況になりました。尊い39名の命が奪われ、すべての住民が被災し、産業は大打撃をうけ、風光明媚で平穏な住みよい町であったふるさとが変わりはてた姿になってしまったのです。

あの悪夢のような日から2年が過ぎました。北淡町は震災当初からの多くの方々からの温かい励ましと様々なご支援に支えら

れ、復興に立ち上がろうとしているところです。大震災を忘れず、力を合わせ、21世紀をめざした素晴らしい町を作っていかなばなりません。

本書は阪神・淡路大震災についての北淡町の記録の概要をお知らせするものです。ふるさと・北淡が再びよみがえり、災害に強く安心・ゆとりある町を目指してさらに大きく飛躍するよう、精一杯力をつくしてまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神戸大学人社系図



00098021943

目 次

I	激 震	1
	被害状況	3
	救 出	7
	避 難	9
II	救 援	11
	救 援	11
	祈 り	16
III	再建へのあゆみ	19
	家屋の撤去	20
	仮設住宅の建設	21
	再 建	22
	激励イベント	23
IV	復旧・復興の槌音	25
	復旧状況	25
	復興の道標	27
	住宅の再建	29
	未来を見つめて	31
V	野島断層	33
	地震と断層	34
	兵庫県南部地震と野島断層	35
	野島断層の保存と活用	38
	資 料 編	

■ご協力いただいた機関・方々（順不同・敬称略）

岩屋警察署、陸上自衛隊普通寺駐屯地第15普通科連隊本部、
朝日新聞社、神戸新聞マーケティングセンター、読売新聞社、
野島断層保存検討委員会、神木 隆

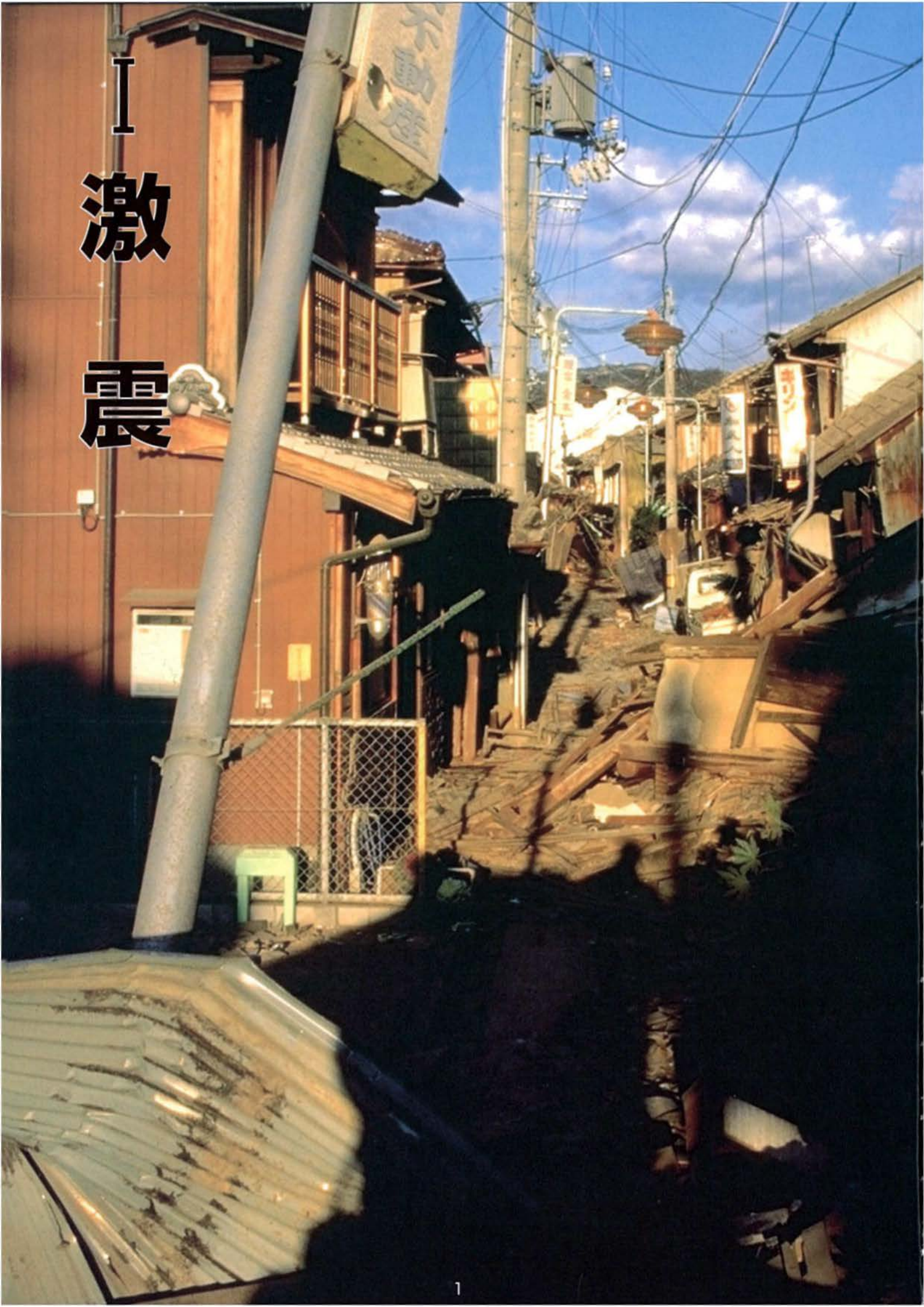
ご協力ありがとうございました。





震災当時の富島地区

I 激 震





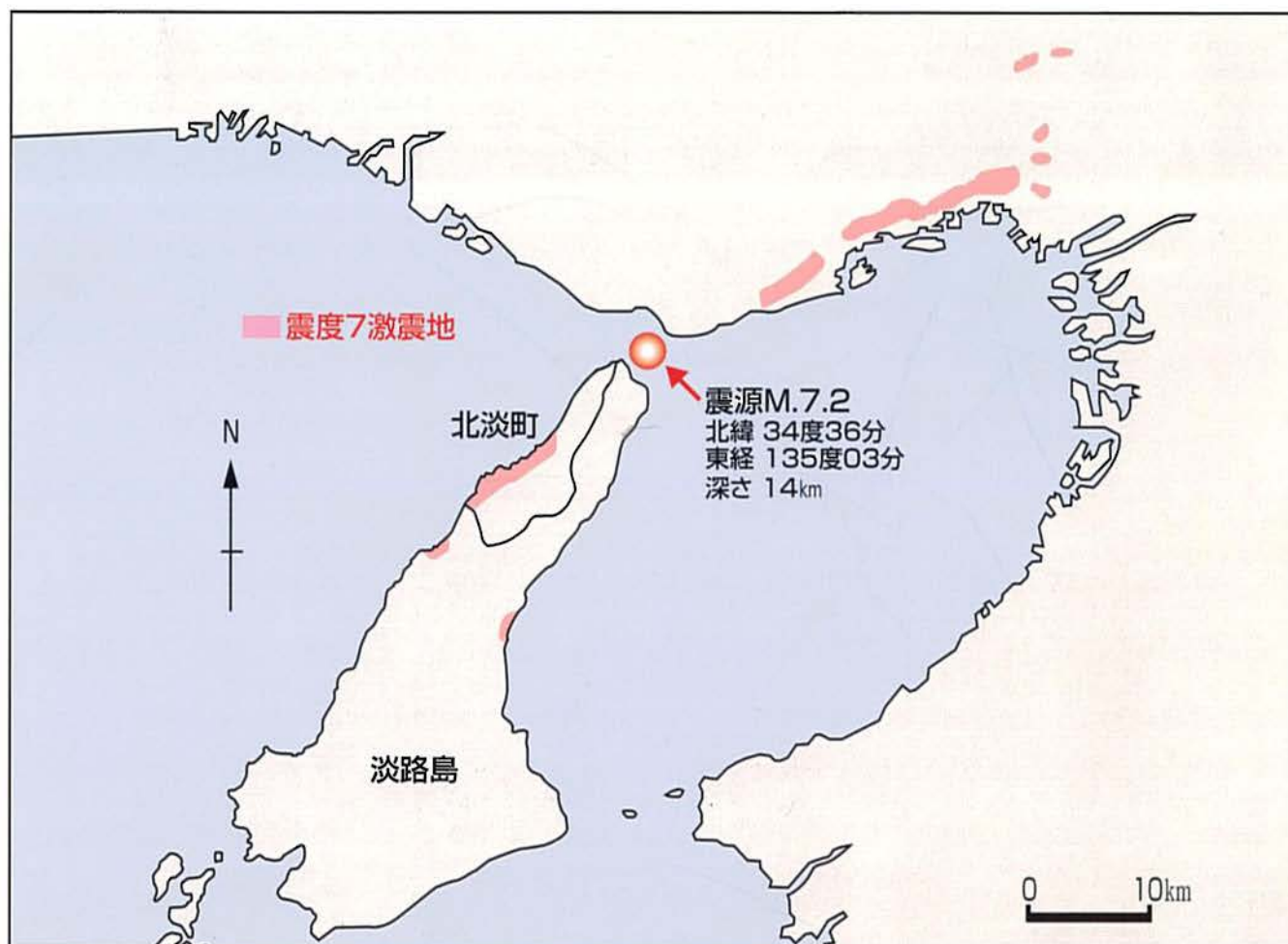
朝日新聞社提供

被害状況



平成7年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震は、一瞬のうちに甚大な被害を阪神・淡路地区にもたらしました。北淡町では海岸部で震度7を記録し、39名の

方が尊い命を奪われたのをはじめ、家屋については3303世帯90%以上が壊滅的な被害を被り、道路や河川・農地・港湾などの被害も非常に大きく、町水道の壊滅的な被害・



未給水地区の井戸枯れにより、水の無い状態が続きました。しかし、地震発生が早朝であったこと、ライフラインの一部（電気・電話）がどうにか機能したこと、幹線道路がなんとか通行できたことなどから、町民一人一人の

連携により被害を最小限に食い止めることができたのではと思われます。もし、これが全て逆の状況であれば、さらに被害は拡大していたと推定されます。

被害報告

項 目		件 数	被害金額 (千円)	項 目		件 数	被害金額 (千円)
人 的 被 害	死 者	39		住 家 被 害	全 壊	1,056	
	行方不明	なし			半 壊	1,219	
	重 傷	59			一部破損	1,030	
	軽 傷	811			計	3,305	
	計	909			撤去家屋	1,837	
農 業 被 害	田 ・ 畑	227	448,230	水 産 被 害	漁船破損	21	14,830
	た め 池	277	4,061,992		共同利用施設	11	130,656
	水 路	96	256,385		計	32	145,486
	そ の 他	76	342,447		水 産 物	(のり養殖) 生産量82%、生産額78% 前年対比ダウン	
	計	676	5,109,054			(漁船漁業) 漁獲量45%、漁獲高75% 前年対比ダウン	
	震災後、地下水位の異常な低下が発生し、農業用水の確保が困難な状況になった。						
土 木 被 害	道 路	121	1,074,408	そ の 他	文教施設	28	522,183
	河 川	11	126,336		上 水 道		1,052,154
	橋 梁	3	77,779		簡易水道		114,540
	崖くずれ	11	2,734,625		そ の 他		2,649,254
	計	146	4,013,148		計		4,338,131

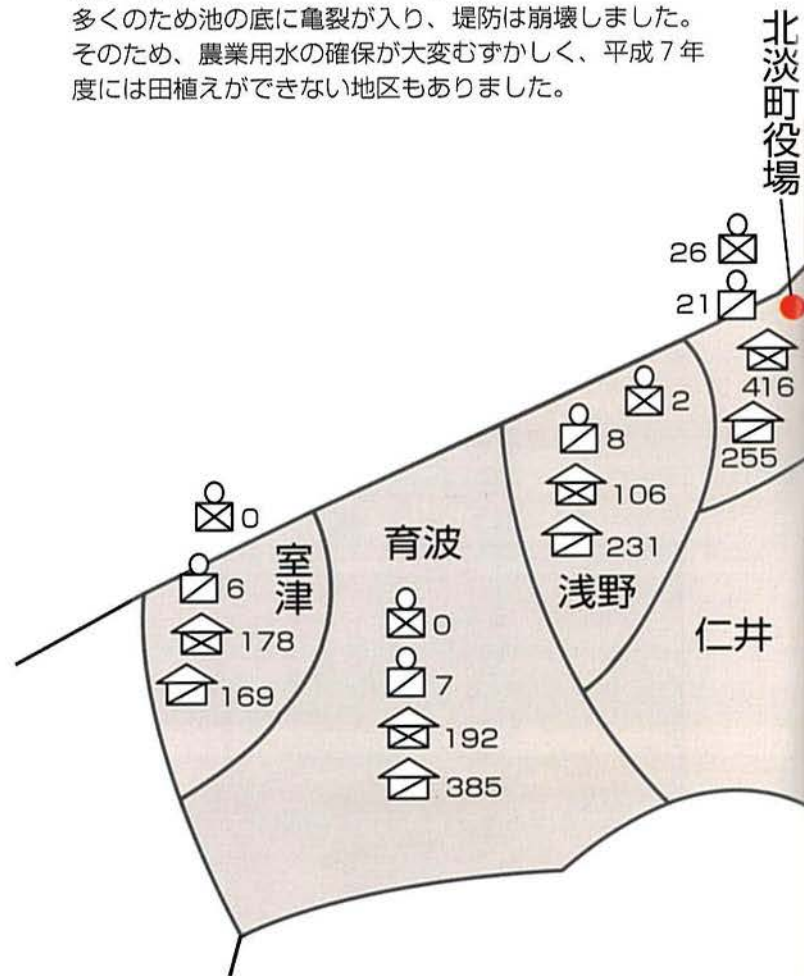
●兵庫県全体の被害状況（県下災害救助法指定市町数 10市10町）

・ 面 積	1,657.60 km ²
・ 人 口	3,024,774 人
・ 死亡者数	6,279 人
・ 負傷者数	34,900 人
・ 行方不明者数	2 人
・ 全壊家屋数	188,068 世帯
・ 半壊家屋数	227,591 世帯



底に亀裂のはいったため池（仁井地区）

多くのため池の底に亀裂が入り、堤防は崩壊しました。そのため、農業用水の確保が大変むずかしく、平成7年度には田植えができない地区もありました。



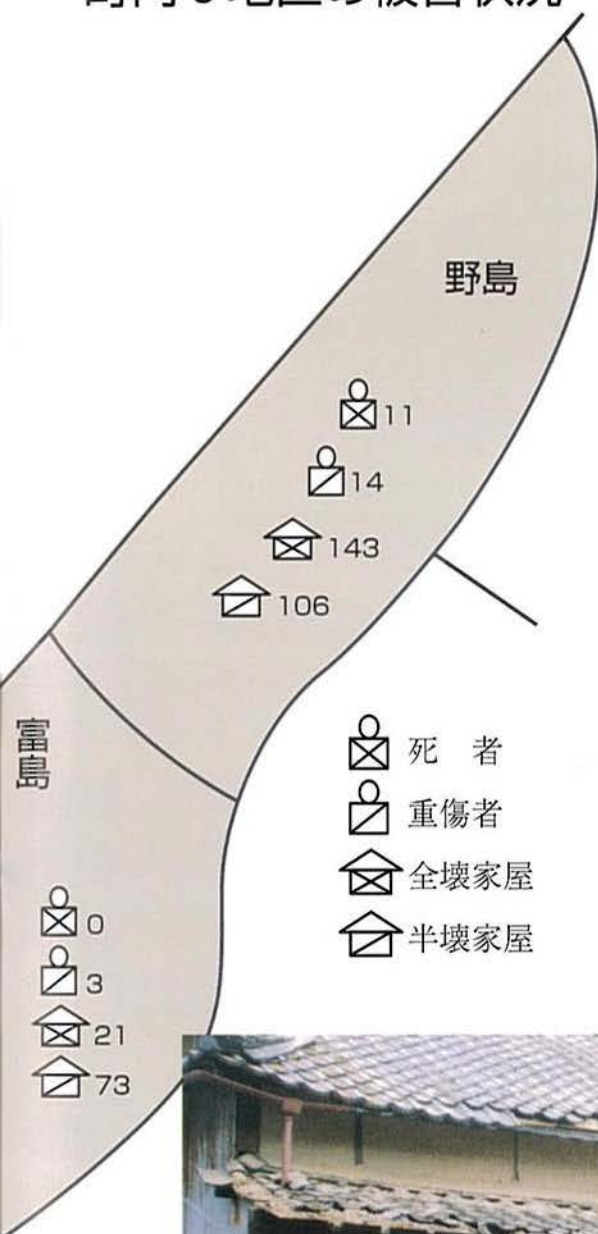
ずれた水路（野島・梨本地区 神木隆氏撮影）

活断層の通った部分ではコンクリート製の水路がひきちぎられたようにずれています。



亀裂が走る水田（野島地区 神木隆氏撮影）
多くの田畑では、亀裂・崩落などの被害を受けた

町内 6 地区の被害状況



地震の衝撃で、多くの漁船にも被害が…（斗ノ内地区）
地震による揺れで、漁船が倒れています。漁船だけではなく、
漁業施設・港湾でも被害は大きく、漁獲量は大幅にダウンしま
した。



路面に亀裂が走りアスファルトがめくれ上がった道路
（野島 平林地区）



瓦葺きの家屋の倒壊（富島地区）

大きな縦揺れと横揺れが地震により起こり、瓦葺きの家屋は倒壊し、また瓦が
ずれ落ちるなどの被害を受けました。

救出



助けを求める声に、奔走する地元消防団員（富島地区）

1. 名 称	平成7年1月17日兵庫県南部地震災害 対策本部
2. 設置日	平成7年1月17日午前6時30分
3. 組 織	本部長（町長） 副本部長（助役、収入役、教育長、消防団長） 部長（役場幹部職員）/役場職員を統括 庶務係（職員出動配置） 情報連絡係 消防・災害報告係（消防各分団との連絡、 広域消防） 出先連絡・被害情報連絡・避難誘導係 医療係、救援物資係、水道給水係 技術指導係

対策本部の設置

H.7.1.17 AM5:46

5:55

6:00

6:15

6:30

8:30

8:50

9:00

10:55

PM 2:30

4:52

兵庫県南部地震発生M7.2激震

富島交番より救急車の手配、応援を岩屋本署へ要請

役場に駆けつけた職員で救助に直行

各分団自発的に出勤

緊急避難所として町内18箇所開設

町長役場に到着

出勤している職員に、人命救助に最大の努力を払うよう指示

被災住民から救助を求める電話多数、パニック状態となる

野島平林北畑宅から出火、消化にあたる

「災害対策本部」設置

死者多数との連絡あり、遺体安置所の設置

飲み水、食糧、毛布、暖房器具等の確保

医療体制の確保（医師の確保、救護班の設置等）

消防団員対策本部の指揮命令下に入る

兵庫県知事に対し、自衛隊の派遣を要請

富島、野島地区で警察官・消防団員等協力し、倒壊家屋等から生存者51名救出、島内の病院へ搬送

徳島県警の機動隊等応援部隊40名到着、直ちに救助活動に出動

町民センターで3名、国立明石病院岩屋分院で4名被災者の自宅で1名の死亡を確認

町内救出作業終了

被害発表 全壊家屋734戸 半壊家屋711戸
死者 37名 行方不明者 なし

平成7年1月17日午前5時46分、ドーンという音とともに地面が激しく揺れ、地震が発生しました。夜明け前のまだ薄暗い中、倒れた家屋の中に生き埋めになった人々やその家族が救助を求めました。

地元消防団員は人々の声に応え、住民と協力し、自主的に救出活動を開始しました。その後警察・広域消防など多くの人が加わり余震が続く危険な状態の中、救出活動が行われました。その結果、午後4時52分には町内全域の救出作業を終了し、行方不明者ゼロを確認することができました。

今回の地震では日頃からの住民と地元消防団の連携と信頼関係が最大限生かされ、いち早く救出活動が開始されました。また地域コミュニティの存在から、所在確認をスムーズに行うことができました。

こうして約300名もの生き埋めになった人々を救出することができ、犠牲者を最小限に食い止めることができたのです。

避難



体育館には多くの人が避難し、毎日のように余震が起こっている中、不安な日々を過ごしました。(育波小学校体育館)

北淡町では従来災害対策本部に基づく避難箇所として11カ所を指定していました。しかし、今回の地震による家屋倒壊が想像を絶するものであったため、当初住民はそれぞれに安全な場所を求め、18ヶ所に避難してい

ました。最大時には3,650人、約30%もの住民が避難しました。

家族や家を失い、失意のどん底で始まった避難所生活でした。余震の続くなか、人々は不安な毎日を過ごしていました。しかし、たくさんの方々の支援・激励に支えられたことで、厳しい生活にも耐えることができたのです。

平成7年3月1日からの仮設住宅完成にともない避難者は徐々に減少し、4月10日を最後に避難者はゼロとなり、避難所は解消されました。

避難状況

避難所	避難者数(延人数)	避難期間
1 野島保育所	723	1/17~1/23
2 野島江崎集会所	3,593	1/17~3/31
3 野島小学校	8,896	1/17~3/31
4 町民センター	25,673	1/17~4/10
5 福寿会館	3,349	1/17~3/31
6 簡保センター	5,672	1/17~3/20
7 富島小学校	2,200	1/17~1/21
8 北淡東中学校	4,961	1/22~3/31
9 浅野小学校	11,332	1/17~2/27
10 浅野保育所	973	1/20~2/7
11 浅野コミセン	93	1/17~1/19
12 JA日の出育波支所	372	1/17~1/24
13 育波公民館	5,427	1/17~3/25
14 育波漁協	770	1/17~1/24
15 育波小学校	10,256	1/17~2/21
16 北淡西中学校	2,757	1/17~3/12
17 黒谷会会所	216	1/17~1/24
18 生田小学校	150	1/22~1/24
19 室津小学校	7,415	1/17~3/10
20 老人福祉センター	1,447	1/17~2/16
合計	96,280	



避難所で余震の続くなかテレビに見入る子供たち



避難所前で子どもたちと話される天皇陛下
(町民センター前で)



被災者に微笑みかけられる皇后陛下
(町民センター前で)

まだ余震のつづく1月31日には天皇・皇后両陛下が北淡町をご訪問になり、被災者を直接励まされました。避難所ではやさしくいたわりのおことばをかけていただき、避難者を力づけていただきました。

避難所での食事は、当初は各避難所に配ら

れてきた冷えたおにぎりだけでしたが、全国各地から来ていただいた炊き出しや各避難所で行われた共同自炊で、温かい食事が確保できるようになりました。自衛隊や民間ホテル等の協力により、断水により入ることができなかったお風呂も入ることができるようになりました。また、散髪やマッサージなど専門家のご協力もいただくなど、多くの方々の励ましをいただきました。

避難所でのボランティアによるマッサージのサービス

避難所ではマッサージ師、美容師などの特技を持ったボランティアも多く訪れ被災者を励ましました。



1月25日には共同炊事ができるように各避難所にはガス台・釜が設置され、避難者は一週間ぶりに暖かい食事を楽しましました。

Ⅱ 救 援



撤去作業中、倒壊家屋から住民の要望により家具を持ち出す自衛隊員。

絶望と不安の中にいた私たちの唯一の心の支えとなったのが自衛隊でした。

震災当日から3月末まで74日間にわたり、倒壊家屋の撤去をはじめ、給水・給食・入浴支援など、幅広い支援活動を繰り返していた

でした。

災害派遣終了式（3.31）では、普通寺市へ帰られる450名の隊員のみなさんを、私たちは感謝を込めて見送りました。



多くの人が大きなフロであたためられました。



北沢東中学校グラウンドに設置された”仮設フロ”



被害調査や警戒活動のためパトロールを行う警察官
(富島地区)



ため池決壊を防ぐため作業を行う消防団員

岩屋警察署では、震災当日から1月末まで24時間体制で警戒活動を行いました。また、道路事情の悪化に伴う交通事故を防止するため、交通整理やパトカーによる広報活動の続け、総出動人員数は、県外の応援を含め延べ3,800人にのぼりました。

震災発生直後、地元消防団員らは自らの被災を省みず、各団員が独自で救出活動を始め、住民との連携により犠牲を最小限に食い止めました。

震災後1か月余りにわたり、2次災害防止のため昼夜を問わず消防活動に専念しました。



広域消防による救出活動(富島地区)

淡路広域消防事務組合岩屋分署北淡出張所では、震災直後より、地元消防団のリーダーとなり救出・救援活動を行いました。

震災当日から2月14日まで、24時間体制で山腹崩壊・ため池決壊などの2次災害防止のため非常体制を続けました。



全国から寄せられた救援物資を整理するボランティアのみなさん(富島小学校体育館)

震災発生と同時に全国各地から多数のボランティア支援があり、その総数(平成7年4月28日まで)は8,500人にのぼりました。個人だけではなく各種企業・団体からも参加いただき、1日最高215名を数える日もありました。

ボランティア事務局を自ら設置して役割分担を行い、膨大な量の救援物資の整理・分配、仮設住宅への入居の手伝いなど、様々な支援をいただきました。



仮設住宅での植栽活動(斗ノ内・背山2団地)



ボランティア事務局での様子

日赤奉仕団のみなさん
による炊き出しの様子
(町民センター前)
温かい食事は本当にあ
りがたいものでした。



避難所での不自由な生活を強いられた私たちを励まそうと、多くの方が各避難所で炊き出しを行ってくれました。

「栄養つけてガンバッテ」と手渡された温かい差し入れが私たちの体と心を温め、疲れを癒してくれました。

また、全国各地からあらゆる種類の救援物資が激励の手紙とともに届けられ、このような多くの人の温かい善意が、未来への希望を失いかけていた私たちに明るい希望の光を与えてくれました。



全国から届けられた救援物資

淡路農高生徒によるぜんざいの炊き出しの様子。
ぜんざいの甘さが疲れを癒してくれました。
(町民センター前で)





臨時診療所で治療を受ける被災者（町民センター）

震災当日から全国各地の医療機関により医師・看護婦の派遣をいただき、臨時診療所が各地で開設しました。

震災による重軽傷、流行性感冒などの治療に多大な支援をいただきました。



避難所での医療活動（北海道・奥尻町の医療スタッフ）



届けられた多くの医薬品

祈り

合同葬儀



混乱が続く中、震災発生の翌日の1月18日、亡くなられた方々の合同葬儀が町民センター大ホールで行われ、遺族をはじめ多くの人々が参列し、深い悲しみに包まれました。



震災から1年を迎えた1月21日、町民センター大ホールで阪神・淡路大震災犠牲者追悼式典が行われ、遺族をはじめ町内外から600人が参列し、犠牲者の冥福を祈りました。式典では町長・遺族・友人たちが追悼の言葉を述べ、復興への決意を強く誓いました。



犠牲者の冥福を祈り手を合わせる子どもたち

北淡町長 小久保 正雄

風光明媚、そして平穏で住みよい町であった我が北淡町が震度7という激震によって有史以来かつてない未曾有の大災害を被り、これからの人生を夢見、あるいはおだやかな余生を楽しもうとする方々の素晴らしい人生が一瞬のうちに奪い去られてしまいました。この無念さを思うとき誠に断腸の念やみ難く、痛恨の極みであります。さらにこの1年という時間の経過の中でさまざまな感慨を抱き、忘れることのできない過酷な体験のなかで苦悩の日々を送っておられるご遺族の胸中をお察し申し上げるとき、万感胸にせまるものがございます。

この大災害により、壊滅的な打撃を受け、余りの被害の大きさに時には挫折感すらも味わうなか、この1年、無我夢中で走り続けてこられたのも多くの方々の図り知れない程の心あたたまるご援助をいた

だいたお陰であり、そして町民各位の北淡町再建への尊い熱意のたまものである、と改めて深い感慨を覚えるものであります。

あれから1年。この大災害にもへこたれることなく、21世紀をめざした以前よりも素晴らしい町を再建しなければなりません。そして、子や孫の世代から、感謝してもらえよう、ほめてもらえるような北淡町を町民一致結束して建設しなければならない、と決意を新たにしております。

どうか皆さん、あなた方がこよなく愛された北淡町をお守りください。私たちは平成7年1月17日を深く心に刻み、永遠に阪神・淡路大震災を忘れることなく、どんな災害にも負けない安心・安全・ゆとりある町づくりを進めることをお約束し、とこしえに安らかなご冥福を心からお祈り申し上げます。

遺族代表 裏井 宏 (富島)

昨年クリスマス、12月25日に雪が降りました。

あの日(平成7年1月17日)の朝の雪のような寒さを思い出しました。それまでも思い出すことはあっても、震災後の整理や仕事に忙しく、しみじみと思い出すようなことはありませんでした。

あの日、あの肌寒さに初めてあの朝を思い出し、胸が熱くなりました。

町の中を走り回っていたかっちゃんやおおいちゃん、そのほか多数の犠牲者、その家族、友達、心の

中の悲惨な思い出……。ほとんどの人たちが会うことのないような試練を経て、強く、そしてやさしい心を得たのではないのでしょうか。

このような想い、思い出を持った人々を創らないようにするためにも、二度とこのような悲劇を繰り返さないまちづくり……。子どもたち孫たちが、この町を出ていかずに暮らし続けることのできるまちづくりを、行政、住民ともに協力して考え、作り上げていくことが私たちの使命ではないのでしょうか。

紺社 えり (富島)

もう地震から1年がたつね。かっちゃんは、今何をしているの。かっちゃんが亡くなってしまった時、すごく悲しかった。1年たった今もすごく悲しい。

かっちゃんの席は、4年生の時と同じように、今の5年生の教室にあるよ。いつも花を飾っているよ。花が枯れてきたら、先生が新しく変えてくれて、いつもいつも咲いている。かっちゃんもそんな花のように明るかった。かっちゃんは、いっぱいやりたいことがあったでしょ。たった10歳で亡くなってしまって、まだまだこれから、いっぱい生きていたのに。私は、地震をイヤというほど憎んだよ。だって、かっちゃんの命を奪ってってしまったんだもの。私は、かっちゃんの方まで頑張っているよ。だからかっちゃんも応援してね。

大崎 慶子 (富島)

私は、今もかっちゃんが教室にいるように思う。そろばんにもお買い物にも、みんなでよく一緒に行ったね。私は、とても楽しかったあの日をいつまでも忘れたくない。

私が避難した時、何かとてもイヤな予感がしていた。その結果、私のお母さん、かっちゃん、富島の人たちの命を奪っていった。手を合わせ、みんなの無事を祈っていたのに、ダメだった。町民センターに行った時、かっちゃんの死を知った。まるでテレビドラマのようだった。とても悲しくて、涙が止まらなかった。色々な思い出が頭に浮かんできた。

かっちゃん、今、天国にいるんだろうね。いつまでもいつまでもずっと私たちを天国から見守っていてね。ぜったいだよ、約束だからね、かっちゃん。

永田 理恵 (富島)

あおいちゃん。お元気ですか。私達6年生は元気です。あおいちゃん、あの1月17日に起きた大地震からもう1年が過ぎましたね。もし、あの地震さえ起きなければ、あおいちゃんは6年生としてみんなと過ごしていたのにね。あおいちゃんがいたら、エスケンもサッカーもバスケットもバレーも野球もみんなと一緒にできたのにね。

あおいちゃん、天国でヒマだったら、いつでも私達を見守っていてください。

坂部 真紀 (富島)

あおいちゃん、今どうしていますか。私達6年生22人は、元気で頑張っています。

私たちのなかで最近、エスケンが流行っています。あおいちゃんは、元気でスポーツが好きだったので、エスケンなんかやったら本当に得意な気がします。今まで「あおいちゃんがいたら」と思うことがたくさんありました。みんなでサッカーをしている時なんか、ボールをもって走っているような気がします。あおいちゃん、これからも私達を見守っていてね。

Ⅲ 再建への あゆみ

頑張れ！にぎわい通り
宮島ふれあい商店街



共同仮設店舗オープンのようす

家屋の撤去

兵庫県南部地震は、町内全世帯の9割を越す家屋に甚大な被害をもたらしました。

町の一日も早い復旧のためには、膨大な量の倒壊家屋の早期撤去が必要と考え、本格的な家屋撤去を平成7年2月6日から開始しました。

家屋の撤去作業は、陸上自衛隊第二混成部隊の支援及び地元建設業者の協力を得ながら行われました。撤去した家屋数は、市街地部分の第1期工事（同年3月31日まで）と山間部の第2期工事（同年6月20日まで）で、合わせて1,837件にも及びました。

家屋撤去に伴い搬出されたガレキは、町内2カ所の仮置場に集められ、可燃物で42,188t、不燃物で123,968tにもなり、ガレキを運ぶトラックの列が町内の至る所で見られました。



浅野仮置場へガレキを運ぶトラックの列



自衛隊員による撤去作業



家屋撤去のようす

仮設住宅の建設



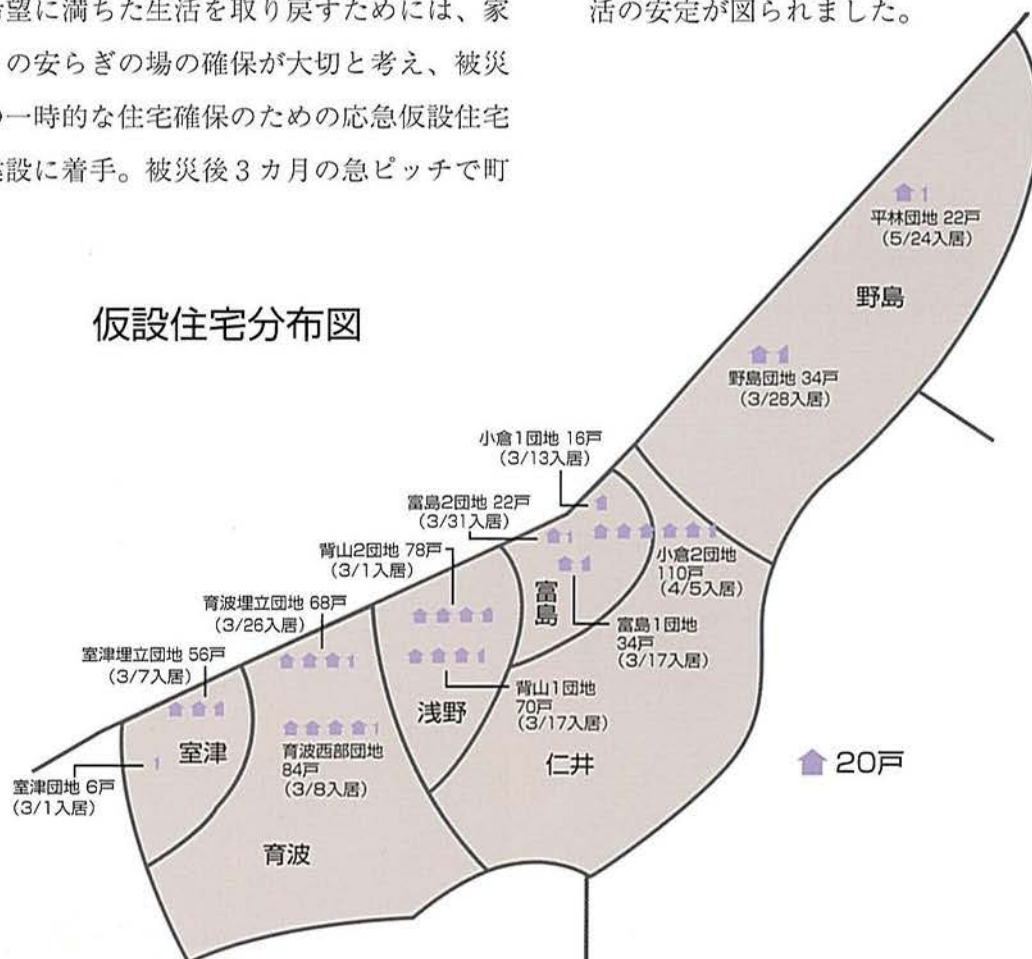
建設中の背山1.2団地

震災で住宅をなくされ、不自由な避難所生活等を強いられた方々が、町内にはたくさんいます。

希望に満ちた生活を取り戻すためには、家族との安らぎの場の確保が大切と考え、被災者の一時的な住宅確保のための応急仮設住宅の建設に着手。被災後3カ月の急ピッチで町

内12カ所に600戸の応急仮設住宅が設置され、平成7年3月1日の第1次入居を皮切りに、被災者が自らの住宅を再建するまでの生活の安定が図られました。

仮設住宅分布図



再建



仮設店舗での営業の再開

震災は商店街などにも大きな被害をもたらしました。しかし、被害を受けた店主の方々は、早く店を再開させようと町内各地でコンテナハウスや露店などで営業を始めました。

約100店舗が連なった富島商店街では、8割の店舗が全半壊しました。自分たちの手でもう一度商店街の再建をと、被災店主は震災後の1月末から模索。プレハブでの営業再開に賛同する店主たちが、富島商店街共同仮設店舗組合を結成し、3月初めから営業再開に向けた活動を開始。飲食店・八百屋・鮮魚店など12業種の被災店が入ったプレハブ共同仮設店舗を2カ所で建設し、5月13日、目玉商品を揃えたオープニングイベントと共に営業を開始。連日買い物客らでにぎわい、沈んでいた町に活気をもたらしています。

地震により、町水道は断水し、未給水地区の仁井地区では井戸の枯れた所が多く、不自由な生活を強いられています。

町では、早期完全復旧を目指し、復旧工事を開始。飲料水の確保や、地場産業であるのり生産用水の確保など仮給水管での給水が開始されました。仁井地区には臨時の給水所2カ所を設置。毎日ポリタンクに水を汲みに通う姿が見られました。



仁井地区の臨時給水所で水を汲む住民

激励イベント



いきいき淡路島フェスティバル「絆の会」によるボランティアコンサート。北淡コーラス忘れな草、会場の人々とともに「いつでも夢を」を合唱



会場内の観客の明るいようす

町の復興の気運を盛り上げようと、町内では多彩な激励イベントが繰り広げられています。

平成7年7月29・30日には震災に負けず、がんばっている淡路島を広くアピールするため“いきいき淡路島フェスティバル”を開催。ボランティアとの交流会、上沼恵美子さんらによるトークショー、橋幸夫さんら「絆の会」によるコンサート、特産品販売の青空市などが開かれ、会場には明るい笑顔があふれていました。

町内で繰り広げられた 激励イベント

H7.2.3 [町役場前]	節分(写真)	地震鬼に対して町長や消防団長などが豆まきを行った
H7.3.21 [北淡東中・北淡西中]	ガンバレほくだん 激励コンサート	陸上自衛隊第2混成団音楽隊の皆さんによる演奏会
H7.4.21 [町内各保育所]	テディベアープレゼン ント(写真)	震災で傷ついた子どもたちとアメリカの心理学者から町内の保育園児331人にくまのぬいぐるみが贈られた
H7.5.28 [浅野小]	ほくだん復興支援・ 工藤重典フルートコ ンサート	
H7.7.28・29 [室津ビーチ・北淡東中]	いきいき淡路島フェ スティバル	
H8.1.15 [富島小]	ザ・イエロー・モン キー震災復興コンサ ート	
H8.3.10 [町民センター]	復興激励演奏会	兵庫県警察音楽隊の皆さんによる演奏会
H8.3.27 [小倉団地ふれ あいセンター]	ソウル・フラワーモ ノノケ・サミットの "なつメロ"コンサート	
H8.3.29 [町民センター]	地元の子もりうたを プロ歌手が歌う震災 復興コンサート	
H8.5.24 [町民センター]	震災復興NHK上方 演芸会公開録音会	
H8.5.25 [町民センター]	みるコンサート	生演奏と影絵による『セロひきのゴージュ』
H8.11.10 [富島小]	～町づくり・夢づく り・人づくり～ 第1回産業文化祭	震災支援に感謝し、ふるさと復興に、がんばっている町をPR



節分の豆まき、地震には負けない!!



テディベアーをもらって喜ぶ子どもたち



産業文化祭で買いものをする人たち

IV 復旧状況

復旧・復興の槌音



地震により大きく崩れた大石地区の現場

北淡町は約 173 億円の災害復旧事業を優先して推進するため、他のプロジェクトを凍結しました。災害救助法の指定をうけて特定被災地方公共団体に指定され、国の財政支援の

下、平成 7 年度末で復旧率 74.9 % を達成し、平成 8 年度末には復旧事業はほぼ完了します。今後は「復旧」から「復興・再建」への、第 2 段階に入ったところです。

復旧後の同地区





生田・葛原池の復旧工事現場。町全体では277ヶ所のため池が被害を受けました。地下水位の異常な低下と、ため池の亀裂により、農業用水の確保が難しく、作付不能になるところがありました。

今回の震災の教訓の一つとして住民への情報の伝達方法の確立とリアルタイムな被害情報の収集があります。震災後数時間は電話が不通状態にあり、被害情報の収集は消防団員の伝令に頼らざるをえませんでした。

この教訓を生かして平成7年度及び平成8年度の2ヶ年をかけて防災行政無線を整備しました。役場親局（写真右）と子局27局及び移動局69局により大災害時の情報伝達にその威力を発揮することができます。



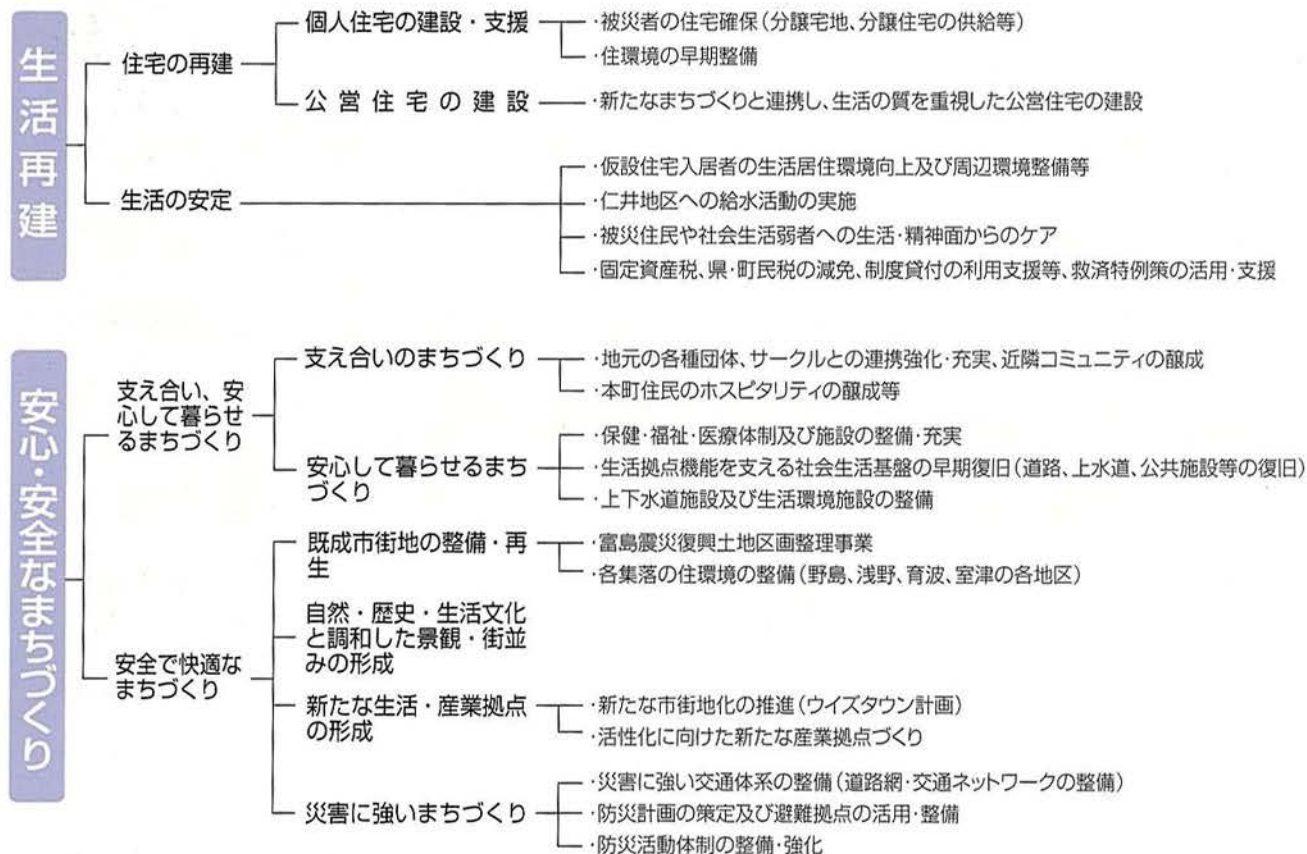
復興の道標

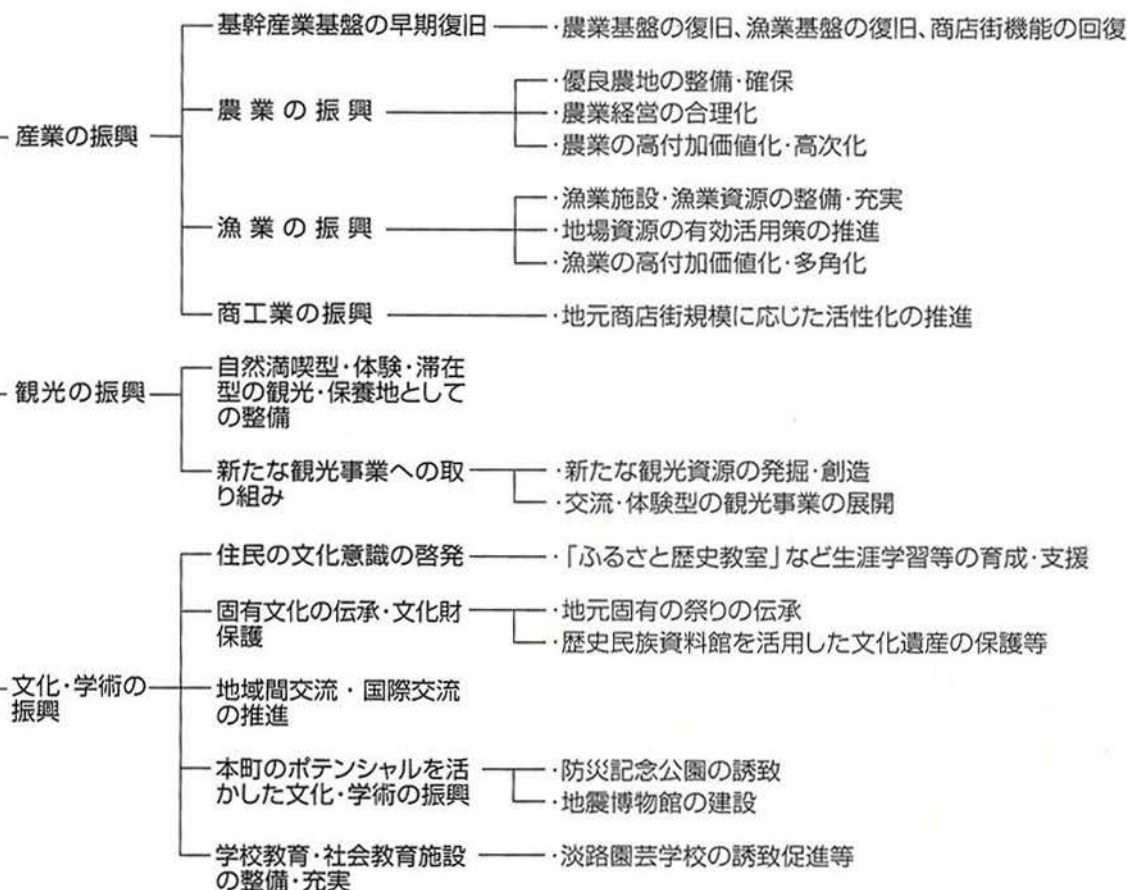


今回の兵庫県南部地震で住民の失ったものは計り知れないものがありますが、その復興の指針となる「北淡町震災復興計画」は、町議会議員・各種団体・県職員・町職員ら20名により構成される「町震災復興計画策定委員会」が、活力ある未来文化都市の創造をめざして策定したものです。

都市基盤整備等の早期復旧及び整備を中心とした、「モノの復興」と、被災者や社会生活弱者への十分なメンタルケアを含めた「こころの復興」を念頭においてその推進に努めます。

北淡町復興計画の概要





ともに手を携えて ～北海道・奥尻町との姉妹都市提携～



平成8年3月24日、北淡町と北海道の奥尻町は、「共に震災で大きな被害を受けた両町は、被災者同志が慰め合う消極的な

関係ではなく、この震災を機に励まし合い、長期展望にたった21世紀の地域づくりに邁進する。」ために姉妹都市提携に調印しました。

住宅の再建

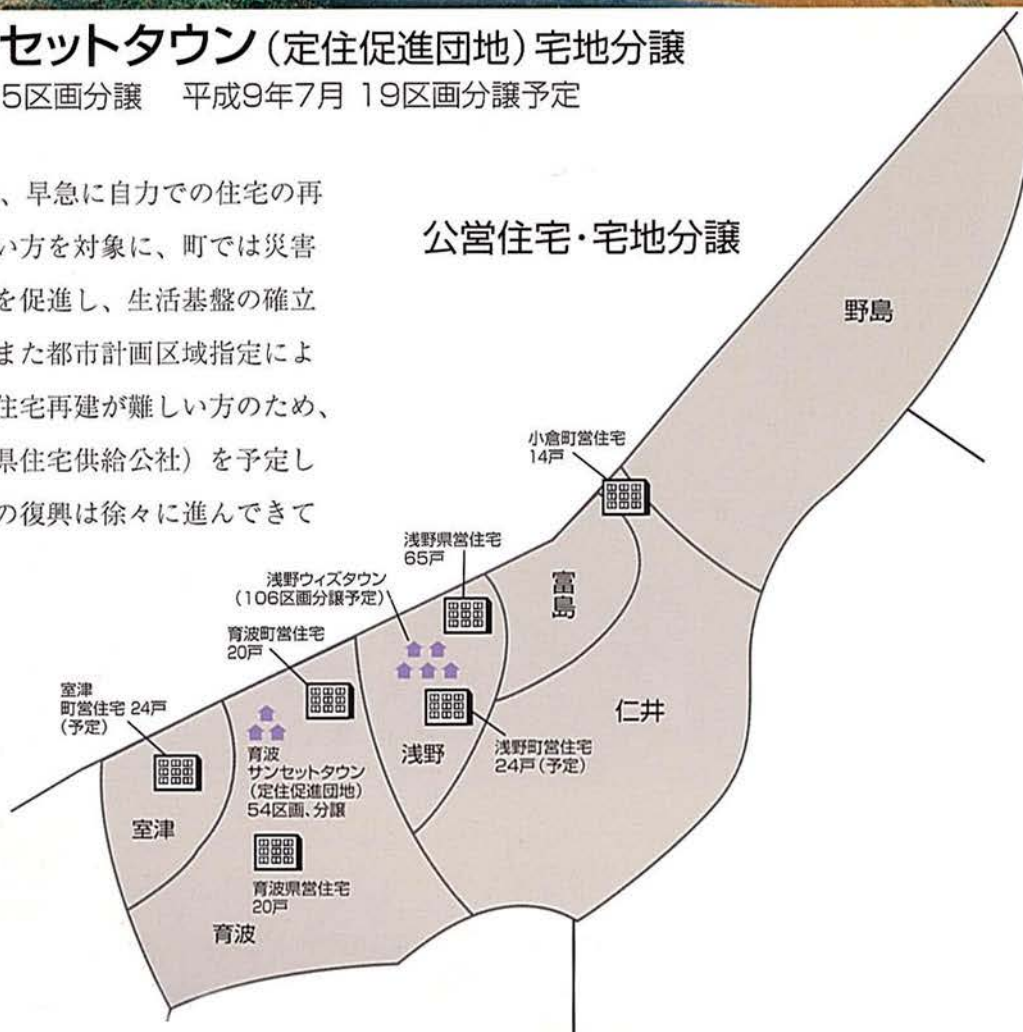


北淡サンセットタウン(定住促進団地) 宅地分譲

平成8年9月 35区画分譲 平成9年7月 19区画分譲予定

住居が全半壊し、早急に自力での住宅の再建・確保が難しい方を対象に、町では災害公営住宅の建設を促進し、生活基盤の確立を図りました。また都市計画区域指定により元の場所での住宅再建が難しい方のため、宅地分譲(町・県住宅供給公社)を予定しています。住宅の復興は徐々に進んでいます。

公営住宅・宅地分譲



町営災害公営住宅 (育波住宅 20戸)

平成8年9月4日完成
平成8年11月1日より入居開始



町営災害公営住宅 (小倉住宅 14戸)

平成8年9月24日完成
平成8年11月1日より入居開始



県営災害公営住宅 (浅野南住宅 65戸)

平成9年2月18日完成
平成9年2月18日より入居開始



未来を見つめて

倒・損壊家屋が多く、建物全・半壊率8割を超える被害を被った富島地区については、土地区画整理事業の手法を用いて、安全で快適な道路及び、防災拠点として活用できる公園を配置するなど、災害に強いまちづくりを目指し、うるおいとアメニティを重視した本町の中心市街地を創出します。

また、野島、浅野、育波、室津の4地区市街地についても、密集市街地整備促進事業や漁業集落環境整備事業等の導入により、生活道路や公園の整備、コミュニティ住宅の建築を行います。

富島地区土地区画整備事業計画図 平成9年3月現在

■富島

土地区画整理事業

安全で快適な道路・防災拠点となる公園など整備

■野島、浅野

漁業集落環境整備事業

生活道路や公園の整備

■育波、室津

密集市街地整備促進事業

生活道路や公園の整備・コミュニティ住宅の建築

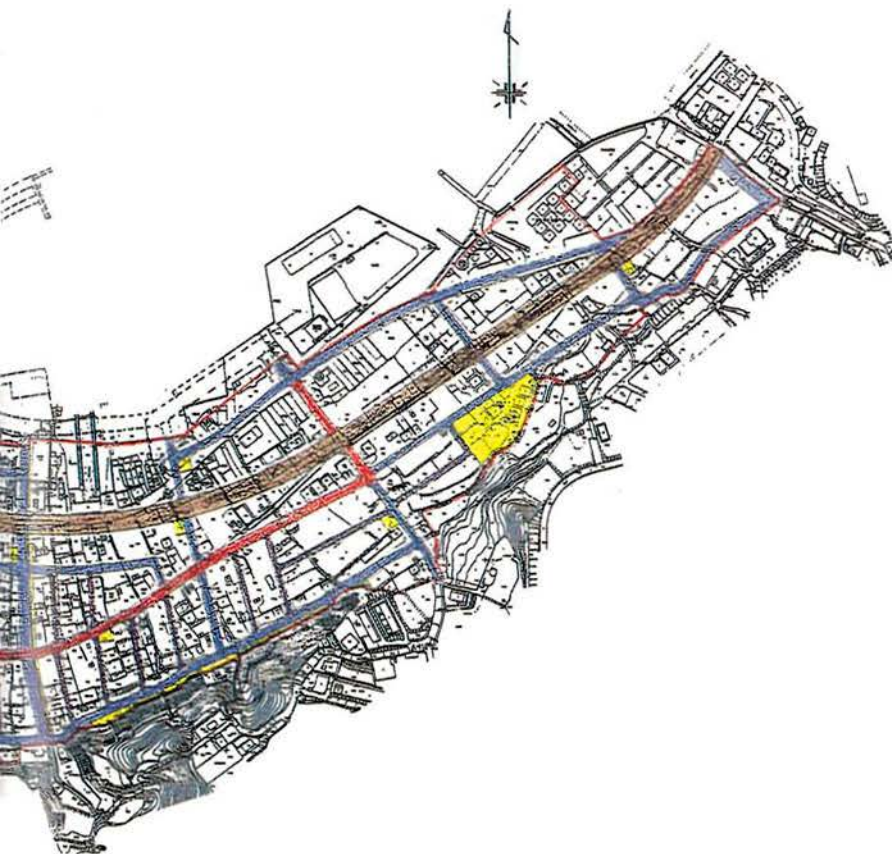


商業施設街区

現在、点在している商店を一ヶ所に集めて商業地を形成するという要望もでており、事業計画の中で検討されています。

一般住宅街区

震災時に倒壊した家屋等により、車両の通行が不可能になった経験から、防災に重点をおいた道路計画に基づき都市機能と生活環境の整った市街地の形成を目指します。



凡例

15m
14m
9m
8m
6m
5m
4.5m
4m
公園
地区界

共同住宅街区

自力での住宅の再建の困難な方のために、密集市街地整備促進事業によるコミュニティ住宅も予定されております。



V 野島断層



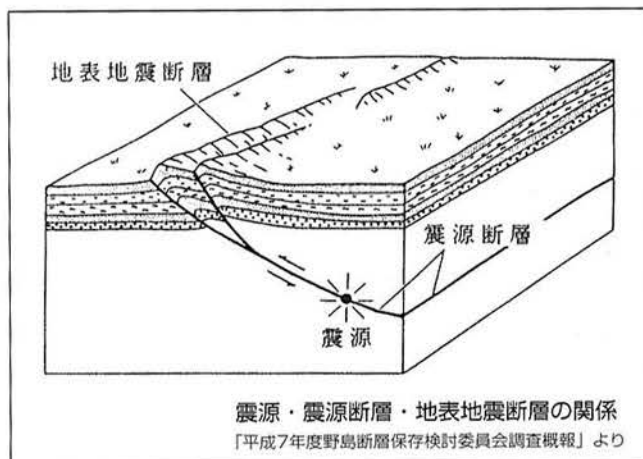
直線的にあらわれた野島断層
(小倉地区 中田 高 広島大学教授提供)

地震と断層

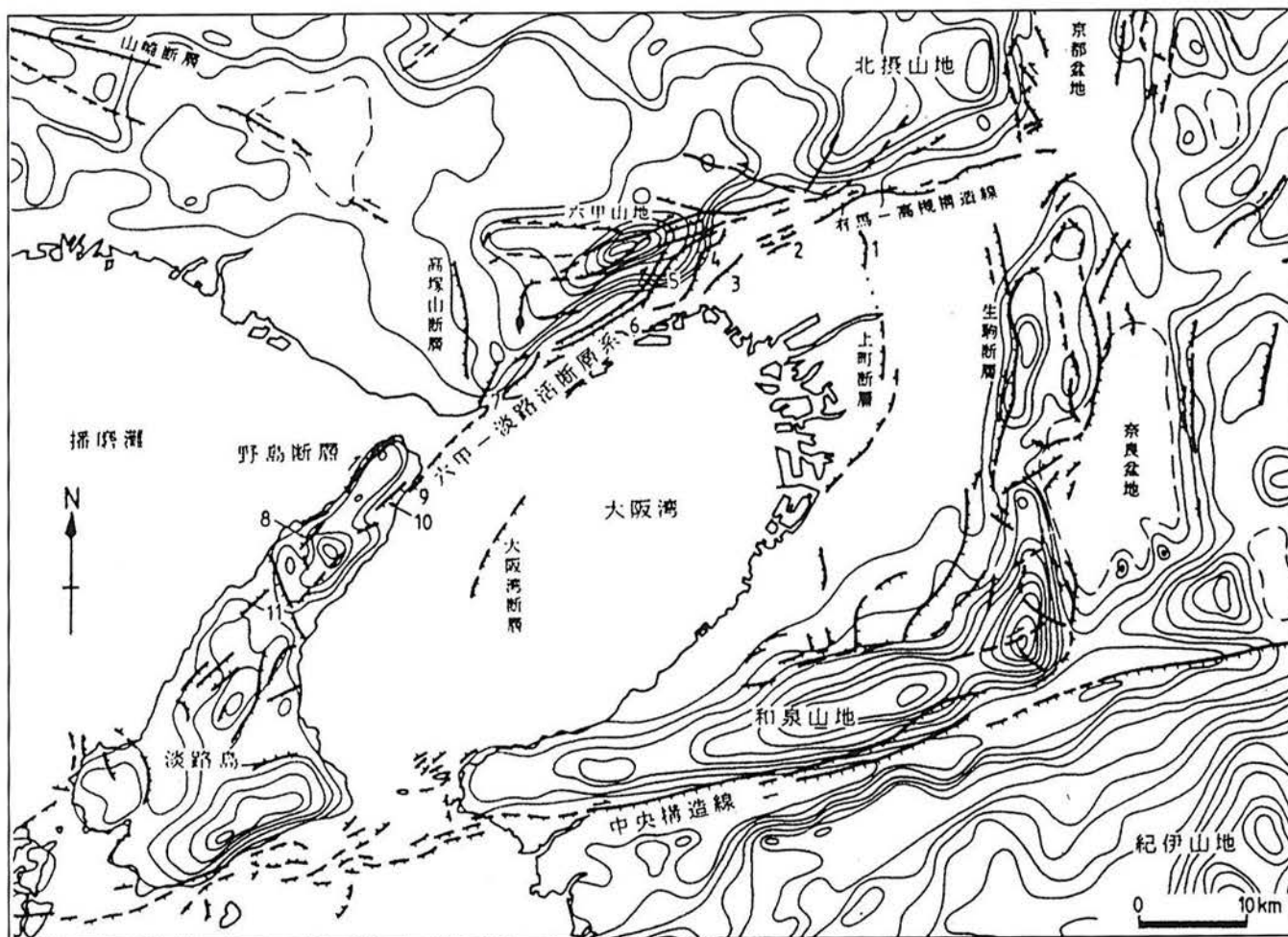
日本の地震の多くは断層の活動によるものです。プレート運動などによって加えられた圧力で岩盤が破壊され、岩盤がずれ動く（断層活動）ときに地震が発生します。地震を起こした断層を震源断層（地表では地震断層）、ずれが始まった地点を震源といいます。

断層は上下方向にずれを起こす断層（縦ずれ断層）と水平方向にずれを起こす断層（横ずれ断層）があり、加えられている力の向きと大きさに関係しています。

断層の中で現在も活動を続け、将来も動く可能性のある断層を活断層といいます。



日本には多くの活断層がありますが、近畿には特に多く、六甲山地から淡路島にかけては活断層が連なる地域です。これらの活断層は現在も活動し、今後も断層運動をおこす可能性があります。



大阪湾周辺の活断層 「平成7年度野島断層保存検討委員会調査概報」より

1. 仏念寺山断層、2. 伊丹断層、3. 甲陽断層、4. 芦屋断層、5. 五助橋断層、6. 諏訪山断層、7. 須磨断層、8. 浅野断層、9. 仮屋断層、10. 楠本断層、11. 志筑断層

兵庫県南部地震と野島断層

兵庫県南部地震:1995年1月17日5時46分52.0秒
震央位置・深さ・マグニチュード
北緯:34°36'
東経:135°03'
深さ:14km
M:7.2

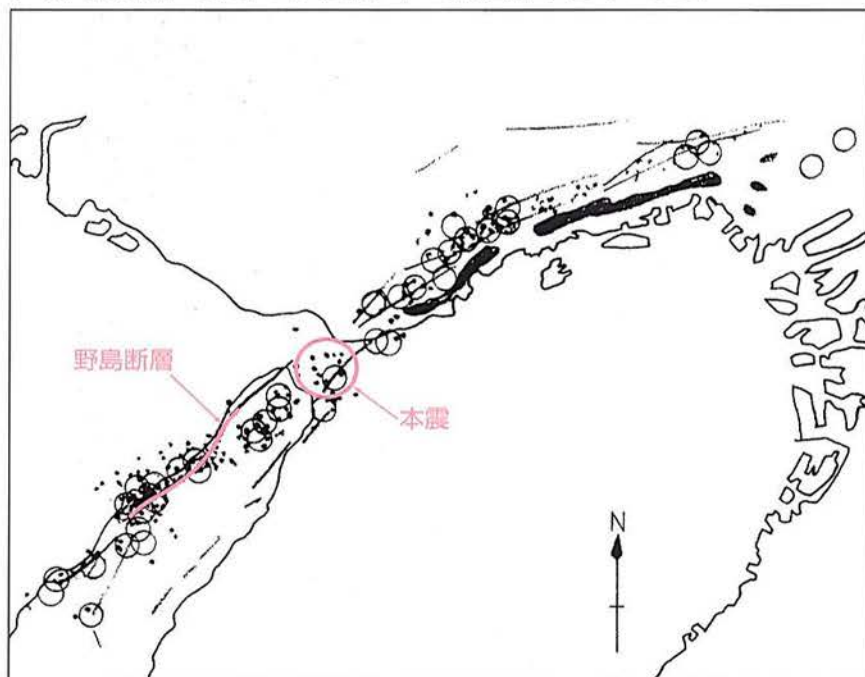


「平成7年度野島断層保存検討委員会調査概報」より

平成7年1月17日午前5時46分明石海峡付近に震源を持つ兵庫県南部地震が発生しました。この地震による揺れは関東から九州に至る広い範囲で確認されました。余震は淡路島北部から宝塚市西部へかけて起きています。これは六甲山地から淡路島北部にかけて連なる「六甲－淡路活断層系」に一致しており兵庫県南部地震は「六甲－淡路活断層系」の一部が再び活動したために起こったものと考えられています。

野島断層は「六甲－淡路活断層系」の一部で、兵庫県南部地震を起こし、地表に現れた断層です(神戸側では明瞭な地震断層は確認されていません)。この断層は兵庫県南部地震以前に発見されていた断層ですが、詳しいことはわかっていませんでした。

兵庫県南部地震の余震分布と活断層 (○印が余震)



「平成7年度野島断層保存検討委員会調査概報」より

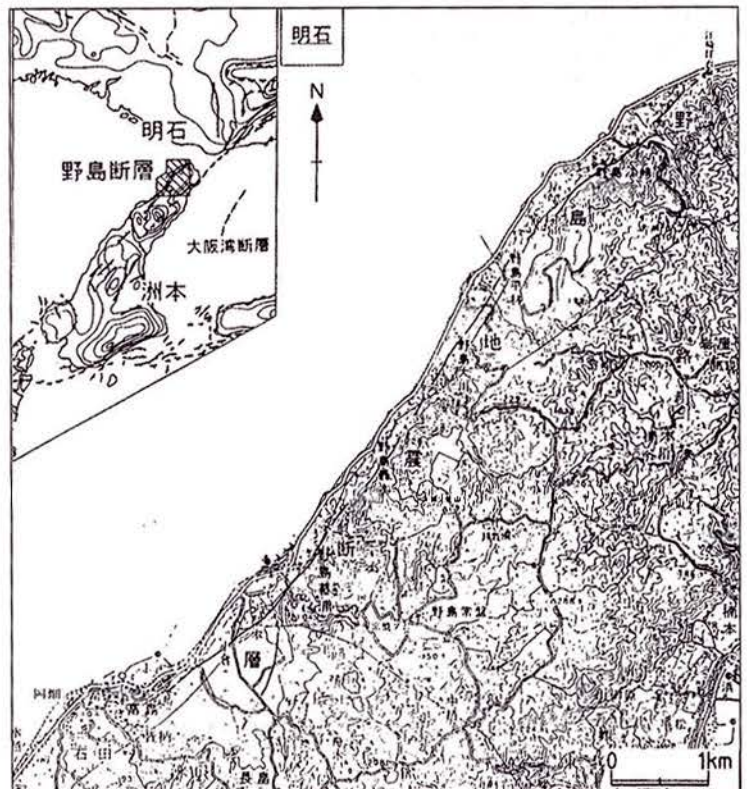


江崎灯台へ上がる階段のすれ
(撮影:広島大学教授 中田 高氏)

兵庫県南部地震により地表にあらわれた野島断層は、野島江崎の江崎灯台付近から野島蓼浦までは山地と斜面地の境界を通り野島蓼浦から南へ2条にわかれています。江崎灯台付近から富島付近まで約10kmにわたって地表にあらわれていました。地震直後は町内各地で野島断層によるずれがはっきりあらわれた場所がありました。

その中でも小倉地区は土砂採取地の中を断層が横切り、畦や水路、道路、生け垣、畑、塀等多くの人口物が縦・横ずれをおこし、二本にわかれた断層や直線的な断層による地形の変化があらわれており、保存の必要性が高いと考えられています。

最大の変化が現れたのは野島平林地区で、縦ずれ1.2m、横ずれ2mのずれが起きており、学術的な価値が高いとされています。



野島地震断層の位置 「平成7年度野島断層保存検討委員会調査概報」より

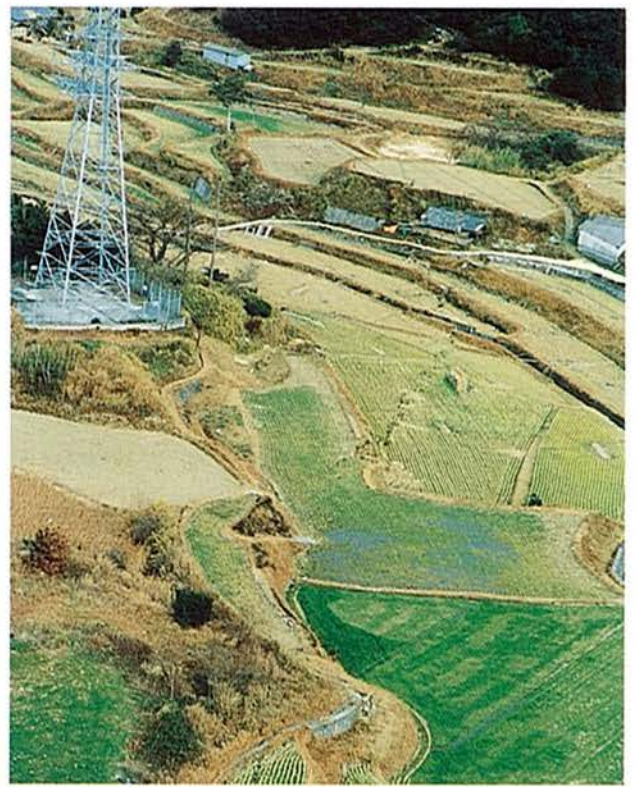
野島断層は断層面を境にして南側（山側）の方が大きく動いており、南側（山側）の岩盤が上がり、西へ動いています。動いた量はその場所によって違います。



江崎地区の水田のずれと亀裂(撮影:広島大学教授 中田 高氏)



野島平林地区 道路のすれ(撮影:中田 高氏)



梨本地区 水田の中を走る断層(撮影:中田 高氏)



小倉地区 2本にわかれた断層(撮影:中田 高氏)

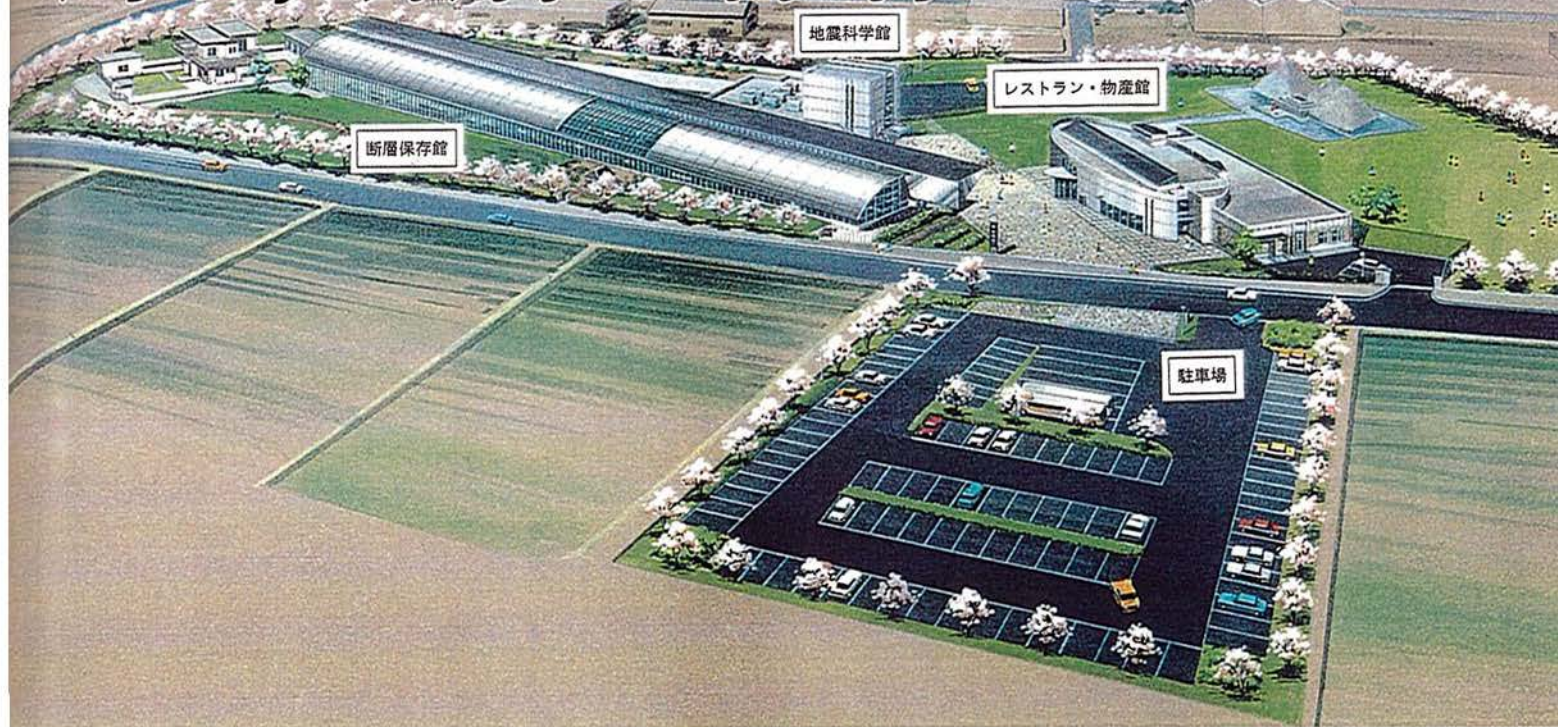


小倉地区 直線的な断層(撮影:中田 高氏)



小倉地区 断層による段差(崖)

野島断層の保存と活用



北淡町震災記念公園(仮称)完成予想図

野島断層は兵庫県南部地震の際あらわれた断層として、また活断層と地震の関係に関心が集まった点について、防災教育の資料として、学術的・社会的に貴重な資料です。多くの研究者・調査機関が調査を行っている他、一般の方々の関心も高く、町では野島断層の保存・活用を検討してきました。

小倉地区においてはシートによる表面保存、フェンスの設置、仮保存施設としてのビニールハウスの設置を行ってきました。

さらに地震と断層に関する理解を深めてい

ただくため、北淡町では野島断層の一部を国の天然記念物として申請したいと考えています。また、兵庫県と北淡町では小倉地区において「北淡町震災記念公園(仮称)」事業を計画しています。これは断層を保存する断層保存館、地震や断層について学ぶ地震科学館のほか、物産館・レストランなども設置し町の活性化に役立つようにします。この事業は平成10年春一部オープンをめざしています。



小倉地区 シートによる保存(H.7.1~H.8.5)



小倉地区 仮保存用ビニールハウス(H.8.6~)

資 料 編

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の記録（H7.1.17～H8.1.21）

平成7年

1月17日 兵庫県南部地震発生 午前5時46分
北淡町災害対策本部を設置
災害救助法指定（神戸市、北淡、津名、東浦、淡路、一宮町）
※2月1日現在で10市10町を指定。
自衛隊災害救援（第3高射特科大隊・姫路市、～1月20日）

1月18日 南部地震北淡町犠牲者合同葬儀（町民センター）
原健三郎衆議院議員視察
貝原俊民兵庫県知事視察
小沢潔国土庁長官視察
避難所に仮設診療所開設（町民センター他15箇所）
気象庁、北淡町役場に地震計と震度計を設置
道路啓開作業及び道路への倒壊家屋撤去開始

1月19日 気象庁、兵庫県南部地震が震度「7」の激震と発表
1月20日 自衛隊災害救援（第2混成団・香川県善通寺市、～3月31日）
避難勧告発令（生田地区、葛原池、22日解除）
共産党議員調査団来町

1月22日 淡路交通バス（西浦線）運行再開
明石・岩屋フェリー運行再開
姉妹都市セントメリス市、震災犠牲者の冥福を祈るミサ、総合援助基金協会を設立し義援金を募集（5回にわたって送金）

1月23日 兵庫県知事調査団来町
避難所への避難ピーク（19箇所、3,650人）
セントメリス市議会が、姉妹都市・北淡町のご友人方に対するお見舞いに関する決議

1月24日 中筋 茂前北淡町長逝去（26日、葬儀告別式）
学校、保育所全面再開

1月25日 仮設住宅建設開始（背山第1団地、～4月4日、総数600戸）
自民党現地視察団来町

1月27日 衆議院災害対策特別委員会被害状況調査のため来町

1月28日 亀井静香運輸大臣来町
原健三郎衆議院議員来町
谷津義男農林水産政務次官来町（活断層調査）

1月29日 野坂浩賢建設大臣来町

1月31日 天皇皇后両陛下被災地行幸啓（町民センター）

2月4日 河野洋平副総理兼外務大臣被災現場視察
大河原太郎農林水産大臣被災現地調査（山、池崩壊、漁港等）

2月5日 野中広務自治大臣被災地激励来町（被災地、活断層、対策本部）
梁瀬進建設政務次官被災地調査
倒壊家屋撤去作業開始（自衛隊、建設業協会、11班編成）

2月6日 北淡町都市計画区域指定区域を告示

2月7日 久野統一郎国土政務次官来町

2月8日 溜水義久建設省都市局技術審議官来町（現兵庫県副知事）

2月9日 北淡町都市計画事務所開設（現都市整備事務所）
仁井地区の自衛隊給水支援開始

2月10日 小里貞利地震担当特命大臣来町

2月13日 北海道奥尻島医療団来町（～18日）

2月15日 都市計画審議委員会開催

2月16日 富島地区土地区画事業説明会

2月17日 震災1ヶ月、全住民による犠牲者への黙祷

2月18日 土地区画整理事業地元説明会（～20日）
災害弔慰金・災害見舞金申請開始（～2月末）

2月20日 仮設住宅入居抽選開始（～24日）

2月22日 水道、仮復旧により全域通水
救援物資第1次配分開始

2月26日 被災市街地復興特別措置法施行

2月27日 第296回北淡町議会臨時会開催

3月1日 激甚災害に指定（災害名、阪神・淡路大震災）
特定被災痴呆公共団体政令市町村に指定〔1県9市7町〕
※阪神・淡路大震災に対処するための特別の財政援助及び助成に関する法律

3月4日 富島地区土地区画整理事業説明会（～12日）

3月6日 仮設住宅入居開始

3月10日 第297回北淡町議会定例会（～28日）

3月11日 救援物資第2次配分

3月13日 北淡町議会が「阪神・淡路大震災」に関しての支援に関する決議を行う

3月17日 兵庫県が大震災復興都市計画13地域（北淡町富島地区含む）を指定。同時に被災市街地復興推進地域に指定。
救援物資第3次配分

3月19日 自由民主党消防議員団来町

3月21日 ガンバレほくだん激励コンサート（陸上自衛隊第2混成団・音楽隊、東西両中学校）

3月22日 救援物資第4次配分

3月26日 富島地区震災復興協議会が発足（27名）
救援物資第5次配分

3月30日 山腹崩壊危険箇所、大石地区に避難警報（野島小学校へ避難）

3月31日 自衛隊淡路島災害派遣終了式（北淡東中学校）
ボランティアおつかれさまこれからがんばりましょうパーティー（老人福祉センター）

4月1日 北淡町災害復興基金条例を制定
災害派遣職員着任（10名、うち県派遣職員3名）
（財）阪神・淡路震災復興基金を設立（兵庫県、神戸市）

4月6日 仮設住宅すべて完成（12団地、600戸）

4月8日 いきいき淡路島フェスティバル実行委員会幹事会（商工会館）

4月9日 兵庫県議会議員選挙が臨時特例により延期（6月11日）

4月10日 北淡町都市整備事務所開設
仮設住宅完成に伴う避難所への避難ゼロ名。野島小は継続中

4月12日 阪神・淡路大震災調査衆議院派遣議員団来町

4月13日 地すべり等、危険箇所現地調査（町、県、消防、警察）

4月17日 共同仮設店舗起工式（富島商店街組合、12店舗）

4月19日 阪神・淡路大震災調査参議院派遣議員団来町

4月22日 救援物資第6次配分

4月29日 断層と地震についての小集会（町民センター、日本地質学会）

5月1日 淡路総合住宅相談所開設（町民センター内）
記録写真特別展「阪神・淡路大震災」（歴史民族資料館）

5月21日 救援物資第7次配分（米ほか）

5月24日 衆議院建設委員会来町
震災復興ひょうごフェニックス県民フォーラム（一宮町）

5月26日 第298回北淡町議会定例会（～29日）

5月27日 地震防災対策シンポジウム（神戸市・町内2名、自治大臣表彰）

6月1日 北淡町震災復興計画策定委員会を設置

6月9日 地震防災対策特別措置法が成立

6月11日 兵庫県議会議員選挙（4月9日が延期）

6月13日 共同仮設店舗オープン（富島商店街、12店）

6月20日 倒壊家屋の撤去作業が完了（2,150戸）

7月18日 地震防災対策特別措置法施行（6月16日公布）

7月23日 参議院議員通常選挙

7月30日 いきいき淡路島フェスティバル（～31日・鎮魂・感謝・復興）

7月31日 町消防団、防災功労者消防庁長官表彰受賞

9月1日 町消防団・町内会連合会、防災功労内閣総理大臣表彰受賞

9月13日 池端清一国土庁長官（阪神・淡路復興対策担当）来町

9月24日 町議会議員選挙（任期満了、同26日、定数16人）

10月1日 国勢調査（人口10,688人、5年間で6.6%減）

10月20日 野島活断層に保護フェンス設置

10月1日 （社）町社会福祉協議会、日本顕彰会・社会貢献者表彰受賞

11月9日 総合防災合同訓練（北淡路3町一北淡町東部総合開発地内）

11月26日 第1回野島断層保存検討委員会（教育委員会）

12月25日 特別職と管理職手当の一部カット（職員ベア分復興資金に寄附）

平成8年

1月15日 成人の日ザ イエローモンキー震災チャリティ・コンサート

1月17日 震災1年・全住民が一斉に黙祷——防災行政無線試運転

1月21日 北淡町犠牲者追悼式典（町民センター）

兵庫県南部地震に伴う消防団等の活動等時間的経過表 (1/17~20)

日 時 分	場 所 等	情 報	番号
平成7年1月 17.05.46	北緯34.6度、東経135、深さ20km 野島 富島 浅野 育波 室津	地震発生 野島地区救出件数 46件 延活動人員 260名 富島地区救出件数 81件 延活動人員 461名 浅野地区救出件数 9件 延活動人員 92名 育波地区救出件数 8件 延活動人員 59名 室津地区救出件数 12件 延活動人員 136名 各分団員召集 分団単位で救出開始 広域消防救出開始 自衛隊3高特殊連隊 総救出件数 156件 延活動人員 1,008名	
06.00	緊急避難場所として町内15カ所	の公共施設解放し避難所開設 (北淡町)	
08.55	北淡町富島 北淡東中学校	化学薬品発火 薬品撤去被害無 広域(鍋島、前川)	
09.35	北淡町役場	被害状況等調査のため対策本部へ 広域(鍋島)	
10.40	仁井の被害(役場職員調査)	全壊2 半壊9 一部崩壊多数	
10.50	北淡町野島平林	民家火災発生・死亡者1名 広域(北淡、岩屋)野島分団	
10.55	北淡町野島養ノ浦農協横	1人不明連絡現場確認に出自向 (野島分団)	
13.45	室津地区	室津小学校へ40~50名避難 分団長報告	
14.55	北淡町役場	対策本部へ 広域(神木、中野)	
15.45	北淡町富島	県道確保のためガードレール切断 広域(明谷、山崎)	
16.30	倒壊家屋調査	野島地区~育波地区調査終了 16.30~18.28 広域消防	
16.52	北淡町野島養ノ浦農協横	不明者発見救出(死亡) 野島分団、広域消防	
16.52	北淡町内救出作業終了		
17.00		各種団体を通じて地区内の行方不明者等の調査指示 各分団長	
17.15	北淡町富島 富島小体育館	屋根亀裂の安全性調査 建設課、広域(中野)	
17.17	北淡町町民センター	死体安置所の応援 広域(森本、浜西、吉川)	
18.10		各分団長から行方不明者等無報告	
18.20	北淡町役場被害発表	家屋全壊734半壊711死者37人	
18.07.00	北淡町役場	災害対策会議	
09.50	北淡町富島 北淡東中学校	救援物資受取出自向 広域消防 5名	
11.15	北淡町富島 北淡東中学校	日赤からの救援物資誘導出自向 広域消防	
12.40	北淡町野島 泉中池	池堤に亀裂報告 池内の湧水 1	
16.40	北淡町役場	災害対策会議 17.00まで	
17.20	北淡町役場	各分団長に地滑り等の管内被害調査を指示	
19.00	北淡町役場	夕食各救護所配布 分団を通じて各地区へ	
19.08.00	北淡町役場	消防団本部会議	
08.00	野島小上 泉中池	水位上昇 池堤に亀裂決壊の恐れ 1	
08.20	北淡町役場	団体部会議 対応説明	
09.00	野島小上 泉中池	水防工法実施 (積土のう) 自衛隊100人、野島分団 1	
09.15		土のう袋を高島建材まで搬送 広域消防	
11.20	奥の平地	漏水調査 12.08 異常無 広域(上田、山口)浅野分団 38	
11.20		消防本部へ土のう袋要請(12.10土のう袋1,500枚到着)	
11.40	北淡町斗ノ内	老人ホーム、あわじ荘、北淡荘まで物資搬送 広域	
12.45	野島小上 泉中池	現地調査出自向 副団長 繁田 他	
13.00	北淡町斗ノ内	老人ホーム北淡荘屋根修理 広域 5	
13.25	北淡町役場	各分団からハンドマイク本部へ集める	
14.00	生田地区溜め池、葛原池等	水位上昇に伴う状況調査(田主に樋を抜き放流するよう指示)16.35まで	
14.50	野島泉中池	使用土のう数3680枚 残600 庁舎前 自衛隊より報告	
15.05	洲本市安乎関西水栓	水防資材受取のため 6	
17.20	野島泉中池	パイプ等資材野島へ 17.20泉中池へ 広域(中野、山口) 1	
17.15	野島平林地区溜め池4箇所	水位上昇調査 柴田、役場2名 7	
17.39	生田池堤	ひび割れのため調査出自向 育波分団長 8	
18.45	生田地区溜め池	中間報告 育波分団長	
18.50	野島平林地区溜め池4箇所	調査終了帰庁(田主に樋を抜き放流するよう指示)	
20.00	仁井榎木池	堤体亀裂報告 仁井分団長 9	
20.50	北淡町役場	団対策会議	
20.00.00	北淡町生田葛原池	育波分団長より堤体(県道)亀裂報告 県土木へ連絡 10	
06.30	北淡町役場	水位上昇、樋を抜いて放流中	
09.50	富島	野島泉中池水位上昇に伴う対策会	
10.30	北淡町浅野南	誤報火災 架空配線の短絡	
10.55	泉中池	斧谷池湧水浅野新地へ流水のため J Vに他方向への流水依頼 浅野分団長 11	
11.45	大阪市より(郵政省 藤島、日立電子 長瀬)	水中ポンプ設置 海上保安庁5名搬入 13	
14.30	北淡町	携帯無線50台貸出あり、災害後返還	
15.05	大坪前溜め池	自衛隊15連隊到着	
15.55		堤体に亀裂 放流中 (育波分団) 14	
17.00	仁井管内	自衛隊3高特殊連隊 神戸へ移動	
17.05	仁井 理田池、峠下池、榎木他	仁井分団から溜め池調査結果報告	
17.57	仁井 理田池	調査出自向 繁田外数名 15	
18.30	仁井 峠下池、榎木他	排水連絡あり 17.17放流開始(光洋開発)	
19.15	古屋大池	排水依頼 (仁井分団)	
19.40	古屋大池	亀裂5cm 田主 (浅野分団) 16	
19.40	仁井 榎木池	田主承諾をとり明朝から放流	
21.00	北淡町役場	田主承諾をとり明朝から放流 石井議長より	
		本部分団長会議	

阪神・淡路大震災の災害警備記録（岩屋警察署）

1月17日	18時00分	24時間常時パトロールの開始
5時55分 第1報		夜間における警備体制の強化と24時間常時パトロールによる警戒活動の実施（1月31日まで）
富島交番、矢本巡査部長から「住民が助けを求めに来ている。家が多数倒れ生埋めが出ているもよう、これから現場へ急行するので応援と救急車の手配を頼む。」との本署への電話報告	20時00分	被災住民の実態調査 避難先及び避難者数 ・ 北淡町 13施設 3,580人 ・ 淡路町 4施設 140人 ・ 東浦町 6施設 200人
6時05分 第2報	1月18日	・ 災害警備要員を指揮本部、調査・救出班、調査班に編成し、管内の重点警ら、被害調査、災害危険箇所の警戒、避難所の立寄り、交通整理及びパトカーによる治安広報等の実施 ・ 国立明石病院岩屋分院に収容されていた被災者の検視と遺族への引渡し ・ 野島養浦「泉中池」の決壊に備えた、消防団との連携による警戒活動の実施 ・ 役場前における救援物資盗難防止活動の実施
6時10分 宿直責任者の指示		
宿直責任者から本署宿直員及び各交番（5交番）、駐在所に対して、管内の被害実態の早期把握と報告の指示	1月19日	・ 徳島県警察パトカー1車2名の応援による、犯罪防止と広報活動の実施 ・ 避難所への訪問活動の実施
6時15分 災害警備本部の設置	1月20日	・ 徳島県警察パトカー1車2名の応援による、北淡町におけるパトロール等地域安全活動の実施 ・ 道路管理者と連携した交通対策班による道路パトロール、交通危険箇所のチェック、県道6路線の全面通行止め及び交通管制センターを通じての広報活動の実施
署長、本署到着。全署員に非常召集を命ずるとともに、署長以下宿直員及び地域課員による「岩屋警察署災害警備本部」の設置	1月21日	・ 徳島・香川両県警察のパトカー4車8名、三原署員4名の応援による北淡町における、パトロール等地域安全活動の実施 ・ 窃盗団情報に対応した、盗犯等の予防警戒活動の実施 ・ 降雨情報に備えた二次災害防止の警戒及び広報活動の実施
6時50分 救出班、第1陣出動		
参集署員の第1陣が本署到着、直ちに救出班を編成。第1陣を富島地区へ派遣	1月22日	・ 警備体制を指揮本部、警察班、捜査・調査班、交通対策班等に再編成 ・ 交通対策班による道路パトロール、道路危険箇所の点検、交通規制標識等の設置、補充及び道路管理者への通報連絡の実施
7時00分 救出班、第2陣出動	1月23日	・ 交通対策班による国道、道路危険箇所の再点検及び交通規制の実施（1月31日まで）
参集署員による救出班、第2陣を野島地区へ派遣	1月25日	・ 銃器対策班による銃の保管状況の点検（1月29日まで）
7時50分 他署応援部隊到着	1月26日	・ 気象情報に対応した火災予防広報の実施（1月30日
洲本警察署から応援部隊10名、本署到着。直ちに当署参集署員とともに北淡町へ救出活動に出動		
9時00分 災害警備体制の増強及び救出活動		
署員の逐次参集により災害警備体制を署長以下40名体制に増強し、警備要員を指揮班、被害調査班（3班）、救出班（9班）、捜査班（2班）、交通対策班、補給班、消防連絡班に編成し、管内の被害調査、被害者の救助、避難誘導、道路損壊箇所の調査等を実施		
北淡町富島、野島地区で消防団員等と協力して、倒壊家屋等から生存者51名を救出し、管内の病院へ搬送		
救出班及び捜査班による遺体の搬送、検視活動の実施		
10時55分 他県応援部隊の到着		
徳島県警察の機動隊等40名、岩屋警察署に到着。直ちに北淡町野島へ被災者の救出活動に出動		
14時39分 遺体の検視		
北淡町民センターで32体（検視医師……北淡町 小山医師）、国立明石病院岩屋分院で4体、被災者の自宅で1体を検視		
17時45分 行方不明者の確認		
各町における行方不明者の最終確認（17時45分現在、行方不明者「なし」）		

- まで)
- 1月31日 ・ 天皇、皇后両陛下の行幸啓に伴う警衛警備（北淡町町民センター）
- ・ 徳島・香川両県警察機動捜査隊の捜査用車4車8名の応援による、北淡町等被災地一体の盗犯特別取締まりの実施
- 2月6日 ・ 自衛隊支援部隊等による被災家屋の撤去及びガレキの搬送作業に伴う、交通整理（規制）、駐車車両の排除及び積載物転落防止措置の監視等、交通事故防止活動の実施（3月30日まで）
- 2月8日 ・ 愛媛県警察のバトカー2車4名の応援による岩屋警察署管内、特に北淡町富島地区一帯の被災地の防犯活動等地域安全活動の実施
- ・ 徳島県警察の応援バトカー2車4名、任務解除
- 2月10日 ・ 兵庫県警察本部に「地域安全推進本部」が設置されたことに伴い、これに対応して「岩屋警察署地域安全推進本部」を設置。総合対策班、行政連絡・広報班、特別取締班、地域安全年対策班、交通対策班及び警備対策班を編成
- ・ ライトアップ作戦の推進
- 2月12日 ・ 当署員及び応援バトカーによる、大雨情報に備えた二次災害防止広報の実施
- ・ 岩屋警察署「のじぎく訪問班」の編成
- 当署員（2名）及び交通指導員（2名）による、被災者に対する心のケアを主とした避難所慰問、防犯指導、各種相談受理活動等の開始
- 2月16日 ・ 岩屋警察署の免許窓口再開
- 免許更新、被災者に対する特例更新、被災者の免許証の再交付及び相談業務の開設
- 2月22日 ・ 当署員と応援バトカーによるセーフティ訪問班の編成
- 銀行等の金融機関43店舗への防犯指導の実施
- 2月28日 ・ 香川県警察の応援バトカー2車4名、任務解除
- ・ 徳島県警察のバトカー2車4名の応援による被災地パトロールなど、地域安全活動の実施
- 3月1日 ・ 「ゆうなぎ地域安全ニュース」3月号作成
- 北淡町に3,700部配布
- 3月6日 ・ 交通安全教室の再開
- 交通課員及び交通指導員による保育園、幼稚園に対する巡回交通事故防止活動の実施
- ・ 地域交通安全活動推進委員との合同パトロールの実施
- 県道福良江井岩屋線を重点に放置車両の追放を呼びかけるなど、災害復旧に従事する通行車両の優先通行の支援活動の実施
- 3月8日 ・ 徳島県警察の応援バトカー3車6名、任務解除
- ・ 愛媛県警察の応援バトカー2車4名、任務解除

- ・ 三原警察署の応援4名、任務解除
- ・ 高知県警のバトカー1車2名の応援による被災地パトロールなど、地域安全活動の実施（3月9日まで）
- ・ 生活安全課、地域課及び交通課員による仮設住宅環境調査班の編成
- 防犯対策及び交通危険箇所等の実態調査及び池、古井戸、その他防犯灯設置必要箇所の調査と関係方面への通報連絡の実施（3月9日まで）
- 3月10日 ・ 徳島・香川両警察機動捜査隊の応援捜査用車、4車8名、任務解除
- 3月11日 ・ のじぎく訪問班による訪問活動の実施
- 避難所2箇所、仮設住宅2箇所の訪問
- ・ 県立淡路生活科学センターとの連携による悪徳商法追放キャンペーンの実施避難所3箇所、仮設住宅2箇所へチラシ配布
- 3月16日 ・ 徳島・高知県警察の応援バトカー2車4名、任務解除
- 応援部隊全て撤収（帰県）
- 3月18日 ・ ガレキ等廃材運搬時の転落防止措置に関する連絡会の開催
- 県下各方面における落下物関連事故の多発に伴い、自衛隊作戦会議室に関係業者を招致し、運搬車両からの落下防止措置の徹底と事故の絶無の指導
- 3月31日 ・ 交通対策班、任務解除
- 自衛隊支援部隊による家屋の撤去活動終了、部隊撤収
- 4月1日 ・ 仮設住宅に防犯連絡所設置
- 4月6日 ・ 早朝一斉保護立番の実施（小学生始業式）
- 4月11日 ・ 「ゆうなぎ地域安全ニュース」4月号作成
- 北淡町に3,700部配布
- 4月14日 ・ 毒物販売・取扱業者に対する事故防止広報の実施
- 薬局等21店舗にチラシの配布
- ・ 家屋修理業者に対する指導
- 4月25日 ・ 仮設住宅入居者に対するアンケート調査の実施（4月26日まで）
- 仮設住宅入居者、511世帯から回答を得て、入居者の要望・意見等を警察活動に反映

岩屋警察署災害警備出動人員数

1 期 間 1月17日から3月15日

2 出動人員

・ 岩屋警察署部隊 延べ 約 2,700人

・ 県 内 部 隊 延べ 約 200人

・ 県 外 部 隊 延べ 約 900人

合 計

○総出動人員 延べ 約 3,800人

阪神・淡路大震災派遣主要行動（陸上自衛隊）

期 間 平成7年1月17日～3月31日

派遣人数 延 31,700人

生活救援

給食支援(1月21日～3月6日) 20,450食(昼夕食のみ炊出)

給水支援(1月21日～3月12日) 188.8t

入浴支援(1月26日～3月29日) 4,850人

被災者が男女別に時間帯区分入浴

生活道路の啓開 4,820M

その他の支援

池の堤防補修 1ヶ所 土のう作成 2,500個(300人時)

上水道止水栓周辺の障害物の除去 1ヶ所

土砂崩れ除去 1ヶ所 5M 50人時

使用機材

ヘリコプター 118機

延車両 8,627両

宿泊・宿舎

淡路農高体育館和裁室及びグラウンド	1/21～3/31	6,437名
北淡東中学校グラウンド	2/4～3/31	2,770名
北淡自然休養村	2/5～3/31	9,122名
仁井公民館	3/5～3/31	840名
生田集会所	2/28～3/31	1,055名
浅野コミュニティセンター	2/4～3/31	1,738名
水越公民館	2/25～3/31	462名
民宿有馬荘	3/1～3/31	310名
計	8ヶ所	22,734名

(人数は延人数)

日 時 分	場 所 等	情 報
17.06:50	第3種非常呼集	
	(第3高射特科大隊)	
10:10	派遣準備完了	
12:10	連絡員派遣	簡易トイレ設置支援各中隊5名、約50ヶ
16:35	ヘリ移動	人員85名、小型車4両
17:30	出発ー北淡町	人員39名 車両19両(小型×4 大型×9 中型×4(アンビ舍)特大×2)
18.07:00～20:00	生活救援活動(給水支援)	未永2尉以下11名 中型、水トレ×各3 約24t 給水
07:30～17:00	〃(道路啓開)	福良江井岩屋線延べ75M啓開(県道約2km区間)
07:30～17:00	〃(緊急物資端末輸送)	非常用糧食、ストーブ 人員15名、車両、大型×2
19.17:00～20:00	〃(給水支援)	未永2尉以下11名 中型、水トレ×各3 約24t 給水
09:00～15:00	〃(池堤土のう積上)	野島・泉中池 約4,000ヶ(3,680ヶ)
		幅4コ 1.2M 高8コ 1.2M 長115コ 40M
	〃(緊急物資端末輸送)	車両 小型×1 大型×5 非常用糧食(缶詰) 2.5t 津名港→北淡町
20.07:00～16:00	〃(給水支援)	未永2尉以下11名、中型水トレ×各3 約9t 給水
	〃(道路啓開)	野島地区250M 富島地区300M
07:30～14:00	神戸地区への転進先遣	人員、車両とも
06:50	第1期災害派遣	
12:00	1中隊北淡地区進出	道路啓開
21.13:00	3中隊出発	西尾1尉以下36名 北淡地区へ
22.08:00	1・3中隊北淡地区	道路啓開 140人
23.08:00	連隊主力北淡町へ	道路啓開 1・3中隊 野島 2中隊 室津、育波
		(育波は当日終了)重迫中隊 野島、浅野 200人
18:00	4中隊北淡町へ出発	上村3尉以下22名
24.08:00	主力北淡地区へ	4中隊富島に投入 道路啓開 220人
25.14:00	15連隊指揮所移転	北淡東中学校グラウンド、救援隊220人
16.06:00	2混団行災命	入浴支援に関する行動命令
16:00	北淡地区入浴支援	東中学校グラウンド
28.17:00	北淡地区炊き出し開始	夕食1,000食 給水支援、入浴支援、炊出支援 60人
28.17:00	北淡地区道路啓開終了	
2. 1.14:00	倒壊家屋撤去等の調整会議	自衛隊、町、建設業協会
2. 1.13:00	指揮所移転	県立淡路農業高等学校グラウンド
3. 15:00～17:00	第2回倒壊家屋撤去等の調整会議	自衛隊、町、建設業協会
4. 13:00	第二期災害派遣	発令
5. 09:00	各隊北淡町へ出発	総数216名 2混施設隊 天野2尉以下21名
		8施設群 角山1尉以下32名
		1中隊 中隊長以下76名
		2中隊 中隊長以下70名
		本管中隊 木村1曹以下17名
16:00～19:00	各部隊町担当者と調整及び宿営作業準備	
6. 08:30～17:00	第1次倒壊家屋撤去作業開始	野島地区、浅野地区、室津地区、富島地区、育波地区
11:00～12:00	協定書交換(北淡町役場)	北淡町の実施する倒壊家屋撤去作業協力のための災害派遣
13. 08:30～17:00	第2次倒壊家屋撤去作業開始	野島地区、浅野地区、室津地区、富島地区、育波地区
13:00	2混団前進本部開設	県立淡路農業高等学校グラウンド
15. 13:00～14:00	被災地復旧状況視察	団長、連隊長、町長、他関係者3名
22. 17:00	倒壊家屋撤去終了	野島地区
3/6. 17:00	炊飯支援終了	北淡町
12. 17:00	給水支援終了	
22. 17:00	倒壊家屋撤去終了	富島、室津地区
17:00	入浴支援終了	
31. 13:00	災害派遣終了式	北淡東中学校

義 援 金

全国各地から多くの方々の優しい心に支えられた義援金がいきも切らず送金及び持参も殺到した。郵便振込み、銀行振込み口座名で災害復興に設置し送金手数料も無料扱いとした。募金期間は県の募集委員会同様に現在も続いている。

「あの日、あの時、そして……」
多くの方々の優しい心に支えられました。本当にありがとうございました。」

全国各地から北淡町に寄せられた義援金は(H.8.11月末現在)

2,522件 4億1千600万円です。

☆義援金の配分については、北淡町配分委員会で慎重に審議し、次のとおり決定・配分されています。

北淡町義援金配分実施状況

平成8年11月末現在(単位 円)

区 分		要 件 お よ び 目 的	配 分 計 画		実 施 状 況		支 給 日
			件 数	配 分 額	件 数	支 給 額	
災 害 見 舞 金		全 壊 損壊程度が70%以上の世帯(1世帯10万)	1,056	105,600,000	1,056	105,600,000	H.7.7.28 ～ 配 分 中
		半 壊 住家の損壊程度が30～70%の世帯(1世帯5万)	1,219	60,950,000	1,219	60,950,000	
		一部損壊 住家の損壊程度が30%未満の世帯(1世帯2.5万)	1,030	25,750,000	1,030	25,750,000	
		計	3,305	192,300,000	3,305	192,300,000	
住 宅 再 建	持ち家再建助成金	震災により失われた住宅を、建設又は購入するための費用の一部を助成(1世帯 10万円)	800	80,000,000	138	13,800,000	H.8.6.12 ～ 配 分 中
	公営住宅転居費助成金	被災者が、仮設住宅等から公営住宅に転居するときに費用の一部を助成(1世帯 5万円)	200	10,000,000	2	100,000	H.8.12月 ～ 配 分 中
		計	1,000	90,000,000	140	13,900,000	
地 域		(H.7年度) 均等割100,000+1世帯当たり 5,000	48	22,775,000	48	22,775,000	H.7.8.4
	町内会助成金	(H.8年度) 100世帯以上 150,000 50～99世帯 100,000 49世帯以下 50,000	51 町内会	4,750,000	51 町内会	4,750,000	H.8.8.20
復 興	社会福祉協議会補助金	協議会費、募金等の補填措置	7～9 年 度	24,000,000	7年度 8,000,000 8年度 8,000,000 計 16,000,000		H.7.9.14 H.8.6.20
興	損壊家屋撤去関連費	倒壊家屋の処理に伴う関連費		15,000,000		15,000,000	H.7.8.4
	県募集委員会負担金	義援金募集委員会への負担金		25,511,000		25,511,000	H.7.8.4
		計		92,036,000		59,036,000	
小 計				374,336,000		265,236,000	
予 備 費				41,278,703			
合 計						415,614,703	

県募集委員会からの義援金は次のとおりです

兵庫県南部地震災害義援金配分実施状況

平成8年11月末現在(単位 円)

区 分	要 件 お よ び 目 的	配分額(円)	件 数	配分済額(円)	配 分 時 期
死亡者・行方不明者見舞金	死亡者・行方不明者	100,000	42	4,200,000	H.7.3月 ～ 配 分 中
住 家 損 壊 見 舞 金	全壊・全焼	100,000	1,056	105,600,000	
	半壊・半焼	100,000	1,217	121,700,000	
	計		2,273	227,300,000	
重 傷 者 見 舞 金	1ヵ月以上の治療を要した負傷者	50,000	59	2,950,000	受 付 期 間 5 / 17 ～
要 援 護 家 庭 激 励 金	住家が全・半壊した家庭における激励金		273	81,900,000	
ひとり暮らし老人 要 介 護 老 人 母 子 ・ 父 子 重 度 障 害 者 生 活 保 護 特 定 疾 患 患 者 原 爆 被 爆 者	80歳以上のひとり暮らし		66	19,800,000	5 月 末 支 給 日 6 / 23 ～ 9 / 26
	65歳以上の老人で介護手当ての受給者のいる家庭		8	2,400,000	
	配偶者のいない者が児童を扶養している世帯		25	7,500,000	
	1～2級の身障手帳の交付を受けている世帯		132	39,600,000	
	生活保護法による保護を受けている世帯		23	6,900,000	
	疾患医療を 受給している世帯		18	5,400,000	
	原爆被爆者 認定証の交付を受けている世帯		1	300,000	
被災児童・生徒教育助成金	被災を受けた児童および生徒の修学を支援するため			6,970,000	受 付 期 間 7 月 中 支 給 日 8 月 9 日
	高校生 教科書助成	20,000	20	400,000	
	〃 新入生助成	70,000	7	490,000	
	保育所 新入生助成	10,000	44	440,000	
	小学生 新入生助成	20,000	62	1,240,000	
住宅助成	中学生 新入生助成	50,000	88	4,400,000	H.7.10月 ～ 配 分 中
	持ち家修繕助成		295	88,500,000	
被災児童特別教育資金	全・半壊した住家の早期復旧を支援する	300,000	25	7,500,000	H.8.10月 H.11.3月
	全・半壊した住家の確保を容易にするため		320	96,000,000	
市 町 交 付 金	両親または父母のいずれかを失った児童の教育環境を著しく低下させないため	1,000,000	対象児童 9名	6,600,000	H.8.7月
生 活 支 援 金	震災時65歳以上の高齢者で、全・半壊の被災者に対し「高齢者激励金」を支給	全壊 20,000 半壊 10,000	1,843	25,000,000	H.8.11月
	義援金第3次配分 震災により、住家の全・半壊した世帯	100,000	2,152	215,200,000	
配 分 済 額 合 計				665,720	

救援物資

平成7年1月17日、阪神・淡路を襲った大震災のニュースが流れたその日から日本全国の皆様より心のこもった救援物資が届けられました。

毛布、飲料水、おにぎり、米が最初に届けられ、保存食料品、缶詰、かぜ薬、学用品、トイレットペーパー等日用品にいたるまで、約4,000件におよぶ温かい品々が私たち被災者のもとに届けられました。

全国からかけつけてくださったボランティアの方々によって、“公平であること”を最優先という配慮の上、皆さんに配分されたのです。

全国の皆様、ほんとうに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

救援物資配布状況

7年3月2日 郵便番号 104-5214-0103

お届先 兵庫県 津名郡北淡町 富島 401 冷凍・冷蔵

氏名 北淡町役場様

〒628-1212 群馬県 勢多郡 赤城村 赤城 512-075657

TEL 0799-82-1144

大阪府東成区大今里1-22-12 兵庫県 津名郡 北淡町 災害対策本部

株式会社 花びし TEL 06-971-8711

御不在通知 午後 配達、使用意図をこの 本日、お荷物をお返し したので下記のとおり 正しくお届き申し上げ 持ち帰らせて頂きます

ゆうパック

お届先 北淡町 災害対策本部様

〒628-1212 北淡町 役場内

TEL 06-971-8711

御不在通知 午後 配達、使用意図をこの 本日、お荷物をお返し したので下記のとおり 正しくお届き申し上げ 持ち帰らせて頂きます

ゆうパック

お届先 北淡町 役場内

〒628-1212 北淡町 役場内

TEL 06-971-8711

御不在通知 午後 配達、使用意図をこの 本日、お荷物をお返し したので下記のとおり 正しくお届き申し上げ 持ち帰らせて頂きます

衣類・日用品他（ボランティアの協力による配布状況）

第1次配分	2/24 ~ 2/26
第2次配分	3/11 ~ 3/13
第3次配分	3/19 ~ 3/22
第4次配分	3/22 ~ 3/25
第5次配分	3/26 ~ 3/30

4. 22	仮設住宅入居者に救援米を配布
5. 21	救援物資米の全戸配布
7. 7	長崎県より譲与のクーラーの配布
9月初旬	老人ホーム、学校、保育所、消防 詰所にストーブ、ポット、ラジカ セ等配分
9月中旬	毛布を各避難所に備蓄用として配 布 全町内会にストーブ、ポット配分
9. 20	仮設住宅へ救援米、ヒーターマッ ト配付
10月初旬	インスタント食品、調味料等、老 人ホーム、保育所に配分
10月中旬	洗剤、薬品等 老人ホーム、診療 所に配分
12月初旬	要援護家庭への配布（電化製品等）
12月下旬	町内一斉配布（布類、薬、ポータ ブルトイレ、その他）
H. 8. 2月初旬	自転車配布（8年度中学新入生 全・半壊対象）
2月19日～23日	全壊世帯（仮設住宅入居世帯以外） 対象に配布 （ラジオ、毛布、ふとん等）

……被災者の声・声・声

「震災の時私は」

野島江崎 原 喜代子

平成七年一月十七日午前五時四十六分、「ゴォードドーン」という音と同時に家が持ちあがり、大きな揺れが起こった。その時、私は台所で子供のお弁当を作っている所で、とっさに食台の下に頭をつっこんで揺れがおさまるのを待っていた。食器棚のガラスがわれ、食器、ポット、釜、あらゆる物が落ちているのがわかった。それと同時にお風呂に入っている子供が気になり見に行こうと思ったが、真っ暗で何も見えないので行ける状態ではなく主人に見に行ってもらった。家のお風呂は別棟にあったため窓から飛び出て行ったのですがその時に、瓦が頭に落ちてきて三針縫うけがをした。私と三人の子供は無事だった。

この時点ではこのような歴史に残る大きな事が起こっているとは考えもしなかった。夜が明けてきて外に出てみると約九割程度瓦が落ちていて、台所も足の踏み場がなく、表座敷の天井が落ち空が見えていた。こんな家を見ていると信じられない気持ちと、築百年以上たって古い家だけど今まで暮らしてきた事を思い涙がでた。

また、その日以来一週間程、避難所での生活が続き、食事もあるもみんな一緒だった。余震が起こるたびにびくびくし、寝苦しく慣れない生活が続いた。この間、消防団の人たちには本当にお世話になった。役場から救援物資を運んでくれたり、池の水があふれてきた時など夜も寝らずに働いてくれたり自分の家の事よりもみんなのために働いてくれ、大変ご苦労な事だったと思いました。

私の家は別棟が無事だったので一週間程で自分の家にもどり家の片付けなど始めた。テレビの報道などで、神戸方面の映像を見ると、一週間程で家にもどってきている自分が、本当に何もなかった方だと思った。また火事の映像を見て、自分もガスをつけていたのと思うと今でも怖くなります。

あれから一年十か月がすぎ、私の家は震災前の生活にもどっていますが、あの朝の出来事を思い出すとやはり恐怖感でいっぱいになります。

また、震災で大変お世話になった消防団の方々には本当に感謝しています。逆に私は、婦人消防団員として十分な努めが出来なかった事を大変申し訳なく思います。

その後、震災の教訓から区画整理などいろいろな問題を抱え、日々が過ぎておりますが一日も早い復旧を望んでいます。

「私が体験したあの衝撃」

北淡町斗ノ内 志田 友安

私は、漁業者です。私の仕事は、夕方出漁して翌朝帰港するのが操業過程です。

当日は、夕方より曇りがちで、風の方も冬にはめずらしい無風状態でした。真夜中近くになって、雪がちらちらと降って来たりしていた。そんな気象状態の中で、何時間か私は操業をしていた。

そうしていたら突然、「ドンドーン。」

と大きな衝撃が、船と私におそってきた。船体が一尺程持ち上がり、私も同様にブリッチの中で一尺程、体が持ち上がった。その数秒後、東の方向に地面から空に向かって、真一文字に太い電光が一本立つのを見ました。しかしそれが地震が原因とは、その時私にはわからなかった。地方の方を見たら北淡町の夜景が、停電のために真っ暗になった。その何秒か、又何分かの後に斗ノ内と富島に電気がついた。まだ育波と室津は、停電していた。ただ一つ、港の赤灯台だけがついていました。

私は、船底に大きな流木が当たった衝撃だと思っていたので、エンジンをストップにして網を上げる事にした。ところが、その作業中にどうしてもエンジンを前進状態にしなければ網が上がらないので、しかたなく前進にクラッチを入れました。私としては、スクリューが変形していると思いこんでいたのでエンジンを全速にしたら船がゆれとばして、又どこかに故障が出ると思っていたので、中速回転でその作業をしていた。ところがクラッチを入れ、尚且つエンジン回転を上げても船体に何の揺れもないので

「何であつたんだろう。」

と思っていた。そして網を上げて帰港しようと思いエンジンを中速回転から全速回転にして帰って来た。その途中、最初にあった衝撃に近いのが二度程ありました。

その日は今年に入って二度目の出漁という事でしたので、魚が非常に多く取れて楽しんで帰路についた。

そして冬の長い夜もしらしらと明ける頃、私は港に帰った。その漁港を見た時、一瞬自分の目を疑った。昨夕、出漁した時と一変して漁船が陸で二十数隻横転し、岸壁には亀裂が走り、又地盤沈下して各民家は全半壊し、組合の事務所も全壊していた。その現状を見て、私が沖で体験したあの衝撃が、又地面からの真一文字の電光も、帰港途中の二度の衝撃も停電もすべて地震が原因だったんだと確信しました。

震災後の1カ月はまさに地獄のよう…

磯野 初男

「淡路島に地震などおこることはまずない」すべての島民の方が、このような先入観念をもっておられたと思います。少しの地震の揺れぐらいの経験は時々ありますが、震度7の地震が直撃した時、私は正直言って飛行機が真近に墜落したか、爆発物が爆発したのか錯覚にとらわれました。それほどすさまじい揺れでありました。

しかし、平成7年1月17日、午前5時46分に起こり、尊い生命と貴重な財産を一瞬のうちに奪った地震は、生涯私の脳裏から離れることはなく、その時、私が水道課長であったことも忘れることはできません。今、震災より9カ月、住民の方々とともに復旧復興に全力を傾注しておりますが、応急給水、仮復旧におわれ不眠不休で作業をした震災後の1カ月はまさに地獄でした。

地震と分かるのに余り時間はかかりませんでした。揺れから3分程して外に出てみると、古い家屋などは倒壊、半壊しているし、瓦などがいたるところにくずれて飛びちっていて、電線などが傾いているやら……。その状況から判断すれば、普通の災害でないことが分かりました。この時、私は水道施設のことが真っ先に頭にうかびました。

午前6時4分頃、家のことは家族にまかせ、水道事務所へ軽トラックで向かうが、途中、家の倒壊等で通行することができず、普段通ったことのないような狭い道を利用して、ようやく6時40分頃（普通は7～8分で通勤）水道事務所にたどりつく。電話は普通。電気は停電。夜勤職員と浄水場の沈澱池、急速ろ過機、電器計装、送水ポンプ等が倒壊、または破損しているかどうか見てまわると、そのようなことがなかったので、胸をなでおろす。この心臓部に当たる浄水場が、ほとんど無傷であったことが不幸中の幸いであつたし、どれほど復旧工事に当たるわれわれを勇気づけたか、計りしれないものがありました。

午前7時40分頃までに職員の大半が顔を蒼白にして事務所に駆けつけてくれる。防災体制、防災訓練など全然しておらず、しかも電話が不通で連絡もとれなかったのに、これほど早く駆け付けた職員の機敏さに私は、頭がさがる思いでありました。

応急給水については、ポリタンクの調達が急務であったが、1日目は淡路の2町より早速、協力があり、10カ所の給水タンク設置できた。2日目以降は県の協力を得て、ほぼ20ヶ所設置できた。本庁よりの応援職員についても、3日目から給水体制がとれた。この中には、自衛隊の方々の協力も忘れることはできません。

当町は、今まで断水経験がなく、昨年の渇水時にもほとんど心配がなかったので、住民は断水に対する対応に相当苦しめたことと思います。

特に、老人の方については、町内会あるいは消防団の方々が配慮してくれたことは、この地獄のような苦しみであっても、ほのかな暖かみのある明るさを感じ、1日も早く給水にこぎつける使命と勇気を与えてくれたものです。

一番気をつかったのは避難所です。学校の体育館、町民センター等の施設にたくさんの方々が避難しておりました。しかも調査した結果、ほとんどの配水管が破損して使用不可能と判明。500人～600人の避難所で水が使用できず、どれほど悲惨な生活をしておられたか、想像を絶するものがありました。

仮復旧工事を徹夜作業も含めて5日間ではほぼ完了し、給水することができました。幹線の水張りを優先的に給水する施設を、地震発生以来8日間ですべて完了できたことの喜びは、今でも忘れることはできません。

各戸完全給水の日程を決めたことについては、若干の冒険的なものでもありましたが、いつ水が使用できるのか不透明な状態では、暗い気持ちをさらに暗く余分な不安をもたせることと、私達水道職員にしても給水日程に向かって努力する目標にもつながると信じたからです。

また、普段より住民の方との対話が必要です。対話をするにより、お互いに親しみと信頼関係が生まれてくるものと思います。そのことが今回の震災でどれだけ大きな助けとなったか、計り知れないものがあります。

最後の稿になりましたが、私も親戚の方が、あるいは友人を震災でなくしました。葬式にも出られなかった状態です。私のような方が阪神淡路にはたくさんおられます。戦争は人間の手で止めることはできます。

しかし、地震は予知はできても止めることは不可能です。問題は、犠牲者をできるだけなくし、1日も早く復旧復興対策に取り組むことが肝要です。私たち、水道課職員も水道の復旧工事だけではなく、1日も早く町の復興に全力をあげております。亡くなられた方たちのためにも素晴らしい防災に強い町づくりに頑張り、二度と痛ましい犠牲者をださないように心を新たに決意しております。

「あの一瞬を心のネガに…」

広岡 卓樹

悪夢のそのとき、平成七年一月十七日、午前五時四十六分。ベッドが突き上げられ、タンスと鏡台が頭の近くを通り過ぎていった。天井がきしみ、映画の四次元の世界に引きずりこまれるように、部屋全体が歪み始めた。三十秒に及ぶ震度七の衝撃であった。

横で震えている妻を落ち着かせ、家の被害を調べた。未明のうえ、みぞれ混じりの天候、外は薄暗い、電気は停電。床に散らばったガラスの破片が、不気味にただ白く光っていた。高2の息子が跳び起きてきた。さすがに恐怖で声が上がっている。じいさん、ばあさんも、震えながら部屋から出てきた。

「アー、よかった。家族全員が無事であった」。その安堵感から、不思議と冷静であった。懐中電灯を探し、外に出る。温水器が倒れ、水道管が破裂していた。水道とガスの元栓を閉める。納屋につないでいる愛犬タローの様子を見に行く。瓦屋根が崩れ、わずかな隙間から無事に出てきた。尻尾を巻いて怯えている。安全な場所に移してやった。

身体がブルブルと震え始めた。これは容易ならざる事態であると改めて察した。私は町職員である。とにかく役場へ急がねばならない。あとのことは家族に託し、軽トラックで役場へ向かった。午前六時過ぎ、役場に到着。収入役と消防主任が既に登庁していた。沢山の被害者が着のみのままの状態避難している。電話がひっきりなしに鳴る。生き埋めになった家族の救助を求めて役場に飛び込んで来る。街中は阿鼻狂乱の地獄絵が展開されていたのであった。

町長が六時十五分に登庁。同三十分、間髪いれず災害対策本部を設置。庶務担当の私は県に連絡を取り、自衛隊の要請を促す。ライフラインの途絶で、連絡がつかない。犠牲者の連絡が入り始める。三十九名の尊い人命を失い、家屋の九割が被害を受けた。誰もがこの町が全滅してしまったのではないかと恐怖におののいた。

以後、不眠不休の救援活動が続く。役場のフロアーが寝床となり、時には板間に段ボールを敷いて仮眠したこともあった。やっと我が家に帰って風呂に入ったのは一月三十一日。その晩も役場に帰り、災害対策要員として職務に着く。寒さに震える我が身にムチを打ち瓦礫と化した我がふるさとを再興し、歴史の中で未来に誇れる町づくりをしようと誓う。みんなが合言葉として誓い合った。

ホッと一息がつけるようになった夏の終わりに、いままで我が家の誰もが手つかずの暗室の後片付けを行った。愛用の機材は勿論、貴重なフィルムは無残な姿で散乱していた。一枚一枚、傷がつかないように拾い集める我が眼にはうっすらと涙が滲んでいた。震災一週間前、越前海岸へ撮影に行ったフィルムがカメラの中に未現像のまま残っていることに気づいた。その中の一枚が、青空に向かって飛び立つカモメの勇姿をとらえていた。身体に電流が走った。七月の県展に応募し、入選作品となった。カモメの力強い飛翔にふるさと再生の願いを託し、題名は「大空へ」とした。震災を乗り越えたカモメのように、あの悲惨な一瞬と、みんなが力を合わせて救援活動に取り組んだ姿を、いつまでも心のネガに焼き付け、町職員とし

ての使命と、自らの生きる証として、今日を生きて行きたい。あの時の心が遠ざかりつつある今だからこそ…

震災体験について

関 重信

突然襲った阪神・淡路大震災一月十七日午前五時四十六分ドーンと大きな音と共にグラグラと揺れる、家具が倒れる、停電で真っ暗闇の中、家族を確かめる。

大声で家族の名前を呼ぶ皆無事を確認してから役場へ電話をする。泊まりの山本さんが出て「早くきてくれ」との声も震えている。

車で役場に向かう、浜県道においてくると家が道路上に倒れている、富島へ行くにつれて被害が大きくなっているように思われた。

六時十五分頃に役場へ着くと、役場前にはバジャマ姿で脅えた声で、助けてと走って来る人で、一杯に溢れていた。町民センターに入るように指示して、消防主任に富島の中道からの連絡道路が家の倒壊によって断ち切れになっており、私が町中へ行って連絡をすると言って、谷川を上って行く。

途中でガレキの中から震えた声で、「たすけて」声が聞こえる家の中で一人のお婆さんが、木の間に挟まった状態で、助けを求めている。近隣の人から鋸を借りて、お婆さんを担ぎ出し、息子さんに任せて、中道へ上って行きました。

やはり中道にもバジャマ姿の人がところせましと、助けを求め集まっていた、中には屋根の上から助けを求める人、そんな中で富島大丸前では、二人が閉じ込められた状態で、助けを求めており、私も役場に中道から上の状況を電話報告してから救出に参加する。

その時には消防団も救出作業に入っており1カ所から富島消防団の班別体制をとって救出作業を指示する。

私は、裏井さん夫婦の救出に参加しました。約一時間程度で、奥さんを救出し、夫の美昭さんはガレキの下敷きになりすでに亡くなっていました。

作業についても無我夢中で今でも使ったことのないチェーンソーを手にして、柱を切ったのを覚えております。

又、隣の登さん二階の屋根から、お母さんを出してほしいと叫んでいました。

その二階に上がった時に初めて、辺りを見廻した時に初めて地震にあったすさまじい光景に出会ったことは目に焼きついてはなれませんでした。

その後、町民センターの安置所に手伝いました。

町民センターにつきからつぎへと担ぎ込まれた遺体38体検死の立会いを初め、棺桶・ドライアイス等の手配をしていました。

私たちの町で初めて、これだけの被害・犠牲者を出した、自然災害の恐ろしさ・怖さ、地震に対しての準備、備えが出来てなかったと思いました。

しかし、田舎での災害に対しての対応処理は、地域消防団及び町内会の活動には目をみはるものがありました。

災害対策本部からのお知らせ（抜粋１）

----- 北淡町災害対策本部情報 -----

早急の復旧・復興を願って元の町づくりに協力して行きたい。

平成 7. 1. 22

1. 水道補修進捗状況

上水道 富島地区 富島小、町民センター、役場、北淡東中

育波地区 育波公民館、育波小、北淡西中 通水可能

室津地区 室津小

簡易水道 西部 一部をのぞき可 野島 常盤の一部のみ可

2. 主要町道の復旧状況

野島・浅野・育波・室津については完了（本町線） 富島は80%完了

3. 仮設住宅について

斗ノ内背山に50戸設置のため土地造成工事に着手する。

4. 学校の状況

1 / 21 野島・富島の各小学校を除いて開校 但し浅野小は23日から休校

5. 医療体制

①北淡診療所 24時間体制で診療

②浅野小学校 簡易保険福祉事業団 医師 1 名、看護婦 2 名で 1 / 21 ~ 1 / 28 まで診療

③町民センター 香川医大医師 2 名、看護婦 2 名 徳島日赤看護婦 2 名、事務 2 名で診療、
24時間体制、期間 1 / 17 ~ 2 / 21 まで

④野島小学校 平成病院 医師 1 名、看護婦 2 名で診療、期間 1 / 23 まで

6. 救援物資、支援部隊

救援物資 1 / 17 1 件、1 / 18 61 件、1 / 19 89 件、1 / 20 89 件、1 / 21 83 件

支援部隊 自衛隊 140 人 ボランティア 200 名（天理教ほか） 1 月 21 日の状況

7. その他

・共産党議員調査団来町（1 / 21）

・淡路交通バス 西浦線バス 1 月 22 日から運行する。

・明岩屋フェリー 岩屋～明石 間 1 月 22 日 から運行。

北淡町災害対策本部からのお知らせ

(抜粋 2)

平成 7. 2. 16

■水道の状況 仮復旧率は全体で99.9% (給水3,396世帯・断水4世帯)

■仮設住宅600戸予定・申し込み〔665戸〕

設置予定場所及び戸数

旧野島小跡地	34	小倉2団地	106	背山開発	148	室津埋立地	56
平林団地	26	富島1団地	34	育波西部	84	室津団地	6
小倉1団地	16	富島2団地	22	育波埋立地	68	合計	600戸

入居抽選については2/20～24日の間に行います。

■医療関係 各避難所で診療しております。2/14日 受診件数 175件

■自衛隊による支援 ・支援部隊 320人〔2/16日〕

- ・給水支援〔仁井・平林〕 ・炊出 (避難者用給食)
- ・倒壊家屋撤去 町内市街地で建設業協会の撤去作業の支援をしています
- 入浴〔北淡東中で入浴できます。〕

2月16日は男性 午後5時～午後9時です。

■救援物資の状況 (1/17～2/15まで)

・義援金 981件 ・救援物資 3,516件 ・ボランティア 76人

☆貴重な救援物資ですので大切に☆

■避難所の状況 町内11ヶ所

江崎集会所	30人	野島小	80人	簡保セ	90人	福寿会館	47人	町民セ	325人
北淡東中	64人	浅野小	70人	育波公	77人	育波小	35人	室津小	60人
北淡西中	25人	その他	30人	合計	933人	〔7.2.14 現在〕			

■被災家屋の取り壊し申請〔1,719戸〕

市街地で一斉撤去しておりますが申請された方は必ず立合い並びに協力をお願いします。

ーがれきの搬出ー

搬出の場所ー浅野小の近くで明示しております。

搬出は分類を ①瓦・土砂・コンクリート・鉄類…燃えないもの ②木材・竹類・畳等…燃えるもの ③電気製品・家具類等…粗大ごみ

☆持込み時間 午前7時～午後4時とします〔時間厳守〕

指定場所以外には絶対に捨てないで下さい。

廃材は個人で焼却しないで下さい。

■兵庫県南部地震から1ヵ月を向かえる2月17日に犠牲者の皆様の冥福を祈るため、全町民による犠牲者への1分間の黙祷を行います。

2月17日〔金〕12時

■富島地区土地画事業説明会〔富島地区各種団体対象〕

平成7年2月16日〔木〕午後7時 J A日の出農協北淡支店本店2階会議室

----- 北淡町災害対策本部からのお知らせ -----

(抜粋3)

7. 3. 31

○避難所の状況 (町内 5ヶ所 160人) [7.3.30現在]

- ・江崎集会所 23人 ・野島小 3人 ・福寿会館 24人
- ・町民センター 95人 ・北淡東中 15人 江崎集会所は3月31日で終了予定

■自衛隊による支援は3月31日で終わります

- ・支援部隊 410人 [3月30日]
- ・自衛隊淡路島災害派遣終了式 3月31日午後1時～2時 北淡東中
終了式後香川県善通寺等に帰ります。午後2時には沿道でお送りしましょう。

☆大変ご苦労さまでした。☆

- ・倒壊家屋撤去 1,086件 撤去済 申請の99%進捗
(撤去作業は建設業協会と共同で実施しました。)

☆地区ごとの撤去済件数 ・野島 51件 ・富島 446件
・浅野 121件 ・育波 156件 ・室津 312件

(第1期工事は終わりました)

○仮設住宅 次の団地が完成します。

団地名	戸数	完成予定日	入居予定日
・富島2団地	22戸	3月30日	3月31日

生活物資の搬入は入居予定の前日に行います。 建設課

■災害見舞金の支払 本日3月30日に銀行振り込み致しました。

- ・義援金募集委員会・県一死亡 100,000円、全壊 200,000円、半壊 150,000円

○救援物資等の状況

- ・義援金 1,706件 ・救援物資 3,830件 (3月30日まで)

■本日のボランティア支援は63人です。ご苦労さんです

「花まつり」

- ・とき 4月2日午後1時～
- ・ところ 町民センター
- ・催し 花まつり、炊き出し(焼きそば・たこ焼き)、るんびに太鼓、甘茶接待

○医療関係 避難所での診療状況 3月29日 受診件数 30件

(長い間お世話になっておりました町民センターでの診療は3月31日午前中で終わります。)

■心のケア [相談所] を4月より開設ー高知医大医療団

- ・場所 富島小学校保健室で毎週 月・火・水曜日に実施 (問い合わせ 住民課)

阪神・淡路大震災 北淡町の記録

平成9年3月31日 発行

編 集 北淡町災害復興対策室

発 行 北 淡 町 役 場

〒656-17 兵庫県津名郡北淡町富島401

TEL 0799(82)1144(代)

印 刷 有限会社 中井印刷所

〒656-17 兵庫県津名郡北淡町富島224-4

TEL 0799(82)1113